

# 教育事業概要

## 平成27 年度領域別研修状況

研修領域	研修 コース	定員	申込数	受講 者数	非会員 (再掲)	定員 充足率
新人研修	3	240	211	213	7	88
看護職者としての態度・感性を磨く研修	2	180	175	166	8	97
看護共通研修	18	1,840	1,456	1,365	41	79
准看護師研修	2	160	125	115	31	78
専門分野の研修 I	4	136	100	96	2	74
専門分野の研修(助) II	6	500	67	67	0	13
教育・研究研修(教員研修含む)	11	756	631	590	25	83
看護管理研修 I	5	200	124	119	2	62
看護管理研修(セカンド公開講座) II	4	80	62	62	0	78
認定看護管理者教育課程	2	110	131	106	0	119
医療安全管理者養成研修	5	170	134	133	0	79
災害看護研修	4	265	145	145	2	55
新潟県看護学会	1	800	719	703	320	90
看護職員実務研修	4	240	323	267	210	135
出前研修	16	648	724	724	124	112
職能研修	8	1,080	925	970	15	86
思春期・エイズ研修	1	30	23	20	1	77
WLB推進研修	4	180	180	174	11	100
ナースバンク再就職支援講習	2	220	195	195		89
訪問看護推進研修	3	250	333	333		133
計	105	8,085	6,783	6,563	799	86

平成27年度 新潟県看護協会

新人研修

	研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	学習段階・受講条件
新人研修	新人研修「自分を知らう！明日につなげるコミュニケーション」 ※同じ内容で2回開催	1回目 5/10、11 (月、火)	1日目 受付9:20 10:00～16:00	5/1～5/15	1回目 ガレソンホール	1～2年目の看護職
		2回目 5/31、6/1 (月、火)	2日目 受付9:30 10:00～16:00	5/1～5/15	2回目 メデイアシップ	
	新人助産師スキルアップ研修 ～胎児心拍モニタリングのポイント～	5/10(木)	受付9:20 10:00～16:00	5/1～5/15	新潟県看護 研修センター	1～2年目の助産師

態度感性を磨く研修

	研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	学習段階・受講条件
態度・感性を磨く研修	看護倫理(基礎編) ～倫理綱領って私達にどう結び付くの～	5/19(火)	受付9:20 10:00～16:00	5/1～5/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅠ
	看護倫理(応用編)	10/5(月)	受付9:20 10:00～16:00	5/1～5/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅡ～Ⅲ

看護実践研修

	研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	学習段階・受講条件
看護 共 通	新)看護職労働環境と労働災害に対する対策	5/23(土)	受付12:20 13:00～15:00	4/1～4/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅡ～Ⅳ 腰痛予防を受講の方
	キャリアアップ支援研修 「専門職としての成長のために」 ～何をめざして働くのか 看護職としての未来を描こう～	5/5、6 (金、土)	受付9:20 10:00～16:00	5/1～5/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅢ
	重症度医療・看護必要度	6/14(土)	受付9:00 9:30～17:00	S-QUE研修 会日本臨床マ ネジメント学 会に申し込む	新潟県看護 研修センター	
	看護管理者のための重症度・医療・看護必要度 院内監査のあり方	5/13(日)				
	ストレスマネジメントⅠ ※同じ内容で2回開催 ストレスマネジメントⅡ	1回目6/18(木) 2回目6/26(金)	受付9:20 10:00～12:00	5/1～5/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅠ～Ⅱ レベルⅢ～Ⅳ
	腰痛予防の基本知識とスキル ～抱えない看護～	6/25(木)	受付9:20 10:00～16:00	5/1～5/15	朱鷺メッセ スノーホールB	レベルⅡ～Ⅳ
	施設での看取り ～その人らしい最期を迎えるために～	6/30(火)	受付9:20 10:00～16:00	5/1～5/15	新潟県看護 研修センター	介護施設、小規模多機能型居宅介護施設等で働く看護職
	病院における包括的口腔ケア ～感染から護ろう看護の力で～	7/18(土)	受付9:20 10:00～16:00	6/1～6/15	日本歯科大学 新潟短期大学	レベルⅠ～Ⅲ
	インターネット配信研修(オンデマンド) 高齢者介護施設における看護とマネジメント	5/21(金)	受付12:30 13:00～16:00	7/1～7/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅠ～Ⅳ
	看護記録と法的責任Ⅰ ～看護記録はどうあるべきか～	1回目9/17(木)	受付9:20 10:00～16:00	8/1～8/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅠ～Ⅳ
	看護記録と法的責任Ⅱ ～看護記録はどうあるべきか～	2回目9/18(金)				
	新)地域包括ケアシステム推進の為の研修 Ⅰ 地域包括ケアシステムの理解と運用 Ⅱ シンポジウム 1) ここまで進んだ、新潟県の地域包括ケアシステム 2) 地域包括ケア病棟入院料と病院看護としての具体的実践 3) 地域包括ケアシステムと在宅看護の実践	10/19(月)	受付9:20 10:00～12:00 13:00～15:00	9/1～9/15	朱鷺メッセ	レベルⅠ～Ⅳ

# 教育研修実施報告書

講師	ねらい	受講料	備考	定員	申込数	受講数	非会員
五十嵐透子 上越教育大学大学院 学校教育研究科 教授	1.コミュニケーションの基本スキルを学ぶ。 2.コミュニケーションスキルを学び自己のスタイルを知ることが出来る。 3.ストレスマネジメントができる。	会員4,000円 非会員8,000円		100人	96人	99人	3人
				100人 (2日目再掲)	96人 (2日目再掲)	98人 (2日目再掲)	
清水千香子助産師 佐野真由美助産師 済生会新潟第二病院	分娩監視モニタリングのポイントを知り、助産診断、提供ケア、記録とのつながりを理解することができる。	会員2,000円 非会員4,000円		40人	20人	20人	0人
				100人 (2日目再掲)	95人 (2日目再掲)	94人 (2日目再掲)	
				240人	211人	213人	7人

講師	ねらい	受講料	備考	定員	申込数	受講数	非会員
本間美知子 新潟医療センター病院看護部長	1.倫理綱領を理解する。 2.倫理上の問題点に気付くことができる。	会員2,000円 非会員4,000円	「倫理綱領」及び「事例」持参	100人	107人	103人	8人
本間 千代子 新潟医療福祉大学 名誉教授	日々の看護実践で感じるジレンマについて専門職としての判断基準・現場で適応する方法を学び、実践に活かすことができる。	会員2,000円 非会員4,000円	書式は新潟県看護協会ホームページで案内	80人	68人	63人	0人
				180人	175人	166人	8人

講師	ねらい	受講料	備考	定員	申込数	受講数	非会員
松月みどり 日本看護協会常任理事	看護職が元気で長く働く為に、労働災害の知識やその対策を学ぶ。	会員2,000円 非会員4,000円		120人	63人	61人	6人
長谷川真美 東都医療大学ヒューマンケア学部看護学科 教授 横山 恵子 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科 教授	自分の強みを発見し、自分の将来のキャリアを描くことができる。	会員4,000円 非会員8,000円		80人 80人 (2日目再掲)	58人 58人 (2日目再掲)	57人 57人 (2日目再掲)	0人
S-QUE研修会 日本臨床マネジメント学会				100人	130人	127人	0人
				120人	119人	114人	0人
海老田大五朗 新潟青陵大学准教授	心の健康づくりにつながるセルフコントロールの方法を理解し、自らが実践できるようになる。	会員2,000円 非会員4,000円		100人	50人	44人	1人
				100人	41人	42人	0人
保田 淳子 社団法人日本ノーリフト協会代表	1. ノーリフトと腰痛予防対策に関する基本的知識を習得する。 2.腰痛予防に有効な機器・用具の活用方法を学ぶ。	会員2,000円 非会員4,000円	動きやすい服装で参加。 5/23 (土)の研修を受講している事が望ましい	100人	62人	60人	4人
小池 宣子 緩和ケア認定看護師 南部郷厚生病院	1.終末期にある患者・家族に対する理解を深める。 2.看取りの時の患者・家族への関わりを学び、対応する方法を学ぶ。	会員2,000円 非会員4,000円		50人	35人	34人	6人
田中 彰 日本歯科大学 新潟病院口腔外科教授	口腔ケアの重要性を理解し、実践で活かすことができる。	会員2,000円 非会員4,000円	新潟県看護協会ホームページで案内 動きやすい服装で参加	60人	106人	59人	1人
日本看護協会ホームページ参照	高齢者介護施設で働く看護職員が、多職種と協働しながら効果的にケアを提供するために必要なマネジメント方法を学ぶ。	会員4,104円 非会員6,264円	※個人・施設配信希望は日本看護協会申込	30人	13人	12人	0人
稲葉 一人 中京大学法科大学院 教授	看護記録の法的意義を学び、日々の看護記録に活かすことができる。	会員2,000円 非会員4,000円		100人	112人	110人	5人
				100人	102人	100人	4人
吉田 千文 聖路加国際大学院 教授 伊里昌子 県庁医務課課長補佐 松井 昌子 信楽園病院退院調整専任看護師長 佐藤 智亮 地域包括支援センターあじかた 保健師 猪俣 卓子 看護協会立訪問看護ステーションにいがた	地域包括ケアシステムを理解し、それぞれの立ち位置での役割を果たせる。	会員2,000円 非会員4,000円		250人	209人	206人	3人

	研 修 会 名	開 催 日	時 間	応募期間	会 場	学習段階・受講条件
看護 共通	脳卒中患者のリハビリテーションと看護のポイント	10/20(火)	受付9:20 10:00～16:00	9/1～9/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅠ～Ⅲ
	インターネット配信研修(リアルタイム) 認知症高齢者の理解と看護(基礎編)	11/18(水)	受付9:00 9:30～16:30	10/1～10/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅠ～Ⅲ
	看護職のメンタルヘルスケアⅠ ※同じ内容で2回開催	H28/3/10(木)	受付9:20 10:00～16:00	2/1～2/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅠ・Ⅱ
	看護職のメンタルヘルスケアⅡ	H28/3/11(金)				レベルⅢ～Ⅳ
診療報酬改定説明会	H28/3/8(火)	受付 9:00 9:30～16:30	2/15～2/30	新潟県看護 研修センター		

### 准看護師研修

	研 修 会 名	開 催 日	時 間	応募期間	会 場	学習段階・受講条件
准 看護 師 研 修	看護倫理	9/14(月)	受付9:20 10:00～16:00	8/1～8/15	新潟県看護研 修センター	准看護師 経験10年以下
	チーム医療と連携	10/5(金)	受付9:20 10:00～16:00	8/1～8/15	新潟県看護研 修センター	准看護師

### 専門分野の研修Ⅰ

	研 修 会 名	開 催 日	時 間	応募期間	会 場	学習段階・受講条件
看護 専 門 分 野 の 研 修	BLS(一次心臓蘇生)コース研修	8/17(日)	受付 9:00 開始 9:30～16:00 申込先 新潟ACLSトレーニングサイトホームページ <a href="http://www.18.ocn.ne.jp/acls/">http://www.18.ocn.ne.jp/acls/</a> 日本ACLS協会ホームページ <a href="http://www.acls.jp/">http://www.acls.jp/</a>	8/1～8/15	新潟県看護 研修センター	希望する協会員
	明日からできるがん看護	9/28～9/30 (月～水)	受付9:20 10:00～16:00	8/1～8/15	長岡会場 長岡商工会議 所	レベルⅡ～Ⅲ
	糖尿病重症化予防(フットケア)研修 ※診療報酬加算対象研修	10/23, 24 (金、土)	受付8:20 8:50～18:10	9/1～9/15 ※8/1～ 8/15	新潟県看護 研修センター 中研究室	①所属施設が糖尿病合併症管理 料算定要件のうち、本研修を受 講すること以外の要件は整っ ている施設であること ②糖尿病足病変患者に従事した 経験を5年以上有し、修了後、 糖尿病足病変の看護に従事予 定の者 ③看護部長の推薦がある者で2日 間出席できる者 ①～③条件を全て満たす者 30人
	糖尿病重症化予防(フットケア)研修修了 者のフォローアップ研修	H28/3/8(土)	受付9:20 10:00～16:00	2/1～2/15	新潟県看護 研修センター	糖尿病重症化予防(フットケア) 研修修了者

### 専門分野の研修Ⅱ

	研 修 会 名	開 催 日	時 間	応募期間	会 場	学習段階・受講条件
助 産 師 専 門 分 野 の 研 修	インターネット配信研修(オンデマンド) 助産師 実践能力習熟段階(クリニカルラダー) ステッ プアップ研修 ―キャリアパスの基礎的理解―	7/6(月)	受付12:30 13:00～16:00	6/1～6/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅠ～Ⅲ
	新)インターネット配信研修(オンデマンド) 助産 師実践能力習熟段階(クリニカルラダー) レベ ルⅢ認証申請のための研修 ①「医療安全と助産記録」	7/15(水)	受付12:30 13:00～14:30	6/1～6/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅢ
	新)インターネット配信研修(オンデマンド) 助産 師実践能力習熟段階(クリニカルラダー) レベ ルⅢ認証申請のための研修 ②「子宮収縮薬使用時の助産ケアのポイント」		14:40～16:10			
	新)インターネット配信研修(オンデマンド) 助産 師実践能力習熟段階(クリニカルラダー) レベ ルⅢ認証申請のための研修 ③「産科領域で役立つ脳神経系フィジカルアセスメン ト」	7/27(月)	受付10:00 10:30～12:00	6/1～6/15	新潟県看護 研修センター	レベルⅢ

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
南雲 みどり 脳卒中リハビリテーション看護 認定看護師 他1人	脳卒中患者の病態生理を学び、リハビリテーションの 必要性を理解し、看護実践に活かす。	会 員2,000円 非会員4,000円		80人	55人	51人	2人
日本看護協会ホームページ参照	増加し続ける認知症患者に対し適切に対応するため、 認知症の正しい理解に基づいた看護を学ぶ。	会 員4,104円 非会員6,156円		120人	106人	102人	8人
渡邊 岸子 新潟大学医学部保健学科准教授	心の健康づくりにつながるセルフコントロールの方法 を理解し、自らが実践できるようになる。	会 員2,000円 非会員4,000円	詳細は新潟県 看護協会ホーム ページで案内	100人	20人	19人	1人
				100人	40人	36人	0人
				130人	135人	131人	0人
				1,840人	1,456人	1,365人	41人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
長谷川雅子 新潟脳外科病院副院長	1.倫理綱領を理解する。 2.倫理上の問題点に気づき対応ができる。	会 員2,000円 非会員4,000円		80人	32人	30人	12人
飯田 智恵 新潟県立看護大学助教	互いに連携・補完しあい、患者の状況に的確に対応し た医療を提供する「チーム医療」について理解を深め る。	会 員2,000円 非会員4,000円		80人	93人	85人	19人
				160人	125人	115人	31人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
AHA公認講師	備考 ※動きやすい服装で参加 ※昼食を用意しています ※コース修了者にはAHAカード、ナイチンゲールバッ ジ配布予定	15,000円	新潟ACLS/レ ーニングサイ ト主催 AHA公認 ※新潟県看護 協会共催	26人	27人	27人	0人
三浦一二美:がん看護専門看護師 厚生連長岡中央総合病院 他 がん看護専門看護師(2) 認定看護師(3)	1.がん看護の診断期、治療期、終末期の看護がわかる。 2.がん看護のためのアセスメント、問題の明確化、目 標立案、看護介入、評価のプロセスがわかる。	会 員 6,000円 非会員12,000円	※初参加者 限定	50人	49人	46人	2人
八幡 和明: 厚生連長岡中央総合病院() 慢性疾患看護専門看護師 上原喜美子:県立小出病院 野中 共子: 新潟大学医学部総合病院 他 糖尿病看護認定看護師	フットケアの意味を正しく理解し、糖尿病重症化予防 のためのフットケアの技術を学び、糖尿病患者に具体 的なケアができる。	会 員40,000円 非会員60,000円 ※事前振込	詳細は新潟県 看護協会ホーム ページで案内 ※昼食を用意 しています	30人	16人	16人	0
慢性疾患看護専門看護師 糖尿病看護認定看護師	フットケアが実践できるようにシステム構築ができる。	会 員2,000円 非会員4,000円	アクションプラン 持参 詳細は新潟県 看護協会ホーム ページで案内	30人	8人	7人	0人
				136人	100人	96	2人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
日本看護協会ホームページ参照	助産師のキャリア開発の必要性和助産師のキャリアバ ス・クリニカルラダーを運用・活用するために必要な 基礎的知識および、レベルⅢ認証申請までの具体的な 準備・手続き方法などを理解する。	会 員4,104円 非会員6,264円		100人	12人	12人	0人
日本看護協会ホームページ参照	記録の基礎と助産記録を理解する。	会 員4,104円 非会員6,264円		80人	11人	11人	0人
	子宮収縮薬使用時の助産ケアのポイントについて理解 する。			80人	11人	11人	0人
日本看護協会ホームページ参照	妊娠期・分娩期・産褥期における脳神経系に関するフイ ジカルアセスメントについて学ぶ。	会 員61,564円 非会員 9,396円		80人	11人	11人	0人

	研 修 会 名	開 催 日	時 間	応募期間	会 場	学習段階・受講条件
助産師専門分野の研修	新)インターネット配信研修(オンデマンド) 助産師実践能力習熟段階(クリニカルラダー) レベルⅢ認証申請のための研修 ④「産科領域で役立つ! 呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメント」	7/27日(月)	13:00～14:30	6/1～6/15	新潟県看護研修センター	レベルⅢ
	新)インターネット配信研修(オンデマンド) 助産師実践能力習熟段階(クリニカルラダー) レベルⅢ認証申請のための研修 ⑤「産科領域で役立つ! 代謝系のフィジカルアセスメント」		14:40～16:10			

## 教育・研究研修

	研 修 会 名	開 催 日	時 間	応募期間	会 場	学習段階・受講条件
教育・研究研修	プリセプター研修 ～事例を通して新人とのコミュニケーションを考える～	9/7 (月)	受付9:20 10:00～16:00	8/1～8/15	新潟県看護研修センター	次年度プリセプターを担う者
	新)プリセプター研修(9/7と同内容) ～事例を通して新人とのコミュニケーションを考える～	H28/3/1 (火)	受付9:20 10:00～16:00	2/1～2/15	新潟県看護研修センター	次年度プリセプターを担う者
	看護研究ってどうするの ～臨床での疑問や問題を看護研究につなげる～ 看護研究Ⅰ	9/2 (水)	受付9:20 10:00～16:00	8/1～8/15	新潟県看護研修センター	①看護研究に取り組む予定のもの ②2日間通して参加できる者
	看護研究Ⅱ	9/3 (木)				
	新)看護研究Ⅲ～分析手法を学ぶ～	9/4 (金)	受付9:20 10:00～16:01	8/1～8/15	新潟県看護研修センター	①研究経験のあるもの ②表計算分析に携わった事のあるもの
	新人看護職員臨床研修における 教育担当者研修(Ⅰ)	1日目:10/16(金) 2日目:10/27(火) 3日目:12/1(火)	受付9:20 10:00～16:00	9/1～9/15	新潟県看護研修センター	①部署の教育担当者看護職 (准看護師を除く) ②3日間通して参加 ①②を満たす者
	新人看護職員臨床研修における 教育担当者研修(Ⅱ)	1日目:11/27(火) 2日目:2/9(火)	受付9:20 10:00～16:00	1/1～1/15		
	インターネット研修 都道府県看護協会教育担当者研修	9/18 (金)	13:00～16:00		新潟県看護研修センター	
	臨地実習指導者研修				新潟県看護研修センター	
	臨地実習指導者フォローアップ研修	H28/3/2 (水)	受付9:20 10:00～16:00	2/1～2/15	新潟県看護研修センター	①H20年～23年の修了者で、現在指導者をしているもの。 ②H20年以前の修了者で、次年度指導者となるもの。 ③H20年～23年の修了した者で、次年度臨地実習指導となるもの。
新)看護学校教員研修 学校運営と管理	10/3 (土)	受付9:30 10:00～16:00	調整中	新潟県看護研修センター	看護教員	

## 看護管理研修Ⅰ(5)

	研 修 会 名	開 催 日	時 間	応募期間	会 場	学習段階・受講条件
看護管理	インターネット配信研修(オンデマンド) 労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識～労働時間編～	7/28 (火)	受付12:30 13:00～16:00	6/1～6/15	新潟県看護研修センター	レベルⅠ～Ⅳ
	インターネット配信研修(オンデマンド) 一般病院における認知症ケアの質向上のための看護管理者の役割	8/3 (月)	受付12:30 13:00～16:00	7/1～7/15	新潟県看護研修センター	レベルⅢ～Ⅳ
	新)インターネット配信研修(オンデマンド) 夜勤・交代制勤務ガイドライン導入のための実践方法を知る「理論編」	11/4 (水)	受付12:30 13:00～14:30	10/1～10/15	新潟県看護研修センター	レベルⅠ～Ⅳ
	新)インターネット配信研修(オンデマンド) 夜勤・交代制勤務ガイドライン導入のための実践方法を知る「運用編」		14:40～16:10			
	看護管理研修 看護管理者のための危機管理	11/16, 17 (月、火)	受付9:20 10:00～16:00	10/1～10/15	新潟県看護研修センター	看護部長、副看護部長の任にある者

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
日本看護協会ホームページ参照	妊娠期・分娩期・産褥期における呼吸器・循環器系に関するフィジカルアセスメントについて学ぶ。	会員61,564円 非会員 9,396円		80人	11人	11人	0人
	妊娠期・分娩期・産褥期における代謝系に関するフィジカルアセスメントについて学ぶ。						
				500人	67人	67人	0人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
佐久間亜紀 慶應義塾大学 教授	1.プリセプターの役割を理解できる。 2. 新人指導において困ったときの解決策を見出すことができる。	会 員2,000円 非会員4,000円		100人	110人	105人	4人
佐久間亜紀 慶應義塾大学 教授	1.プリセプターの役割を理解できる。 2. 新人指導において困ったときの解決策を見出すことができる。	会 員2,000円 非会員4,000円	詳細は新潟県看護協会ホームページで案内	100人	117人	108人	3人
富田真佐子 臨床看護研究サポートセンターSoins 代表 昭和大学保健医療学部 教授	1.臨床で取り組む研究の意義を理解し、研究のプロセスを学ぶ。 2.論理的思考・研究計画書・抄録・論文の書き方を学ぶ。	会 員4,000円 非会員8,000円	看護研究Ⅰ	100人	80人	77人	3人
			看護研究Ⅱ	100人	80人	76人	3人
富田真佐子 臨床看護研究サポートセンターSoins 代表 昭和大学保健医療学部 教授	1.分析手法を学ぶ。	会 員2,000円 非会員4,000円	看護研究Ⅲ	30人	43人	30人	0人
中根 薫 新潟青陵大学看護学科 准教授	教育担当者として部署の教育体制整備と研修企画、運営、評価に係る研修を実施し、新人看護職員研修の充実を図る。 ※日看協「新人看護職員臨床研修における研修責任者・教育担当者育成のためのガイドライン」を事前学習	無 料	詳細は新潟県看護協会ホームページで案内	60人	55人	51人	1人
				60人	30人	31人	0人
	都道府県看護協会における教育担当者の役割と具体的な研修企画・運営・評価の方法を理解できる。	無 料		16人	10人	10人	10人
			新潟県からの募集を参照	50人	54人	52人	1人
西村 ユミ 首都大学東京健康福祉学部 人間健康科学研究科	臨地実習のあり方を再認識し、社会や教育の変化や、看護の動向を再確認しその役割を発揮できる。	会 員2,000円 非会員4,000円		80人	18人	16人	0人
齋藤 茂子 東京工科大学 医療保健学部看護学科教授		会 員2,000円 非会員3,000円		60人	34人	34人	0人
				756人	631人	590人	25人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
日本看護協会ホームページ参照	労働者として管理者として知っておくべき労働基準法の基礎知識を身につける。	会 員4,104円 非会員6,264円	※個人・施設 配信希望は日本看護協会申込	30人	25人	23人	0人
日本看護協会ホームページ参照	認知症高齢者に対する理解を深め、定期利那支援を行うための看護管理者としての役割を学ぶ。	会 員4,104円 非会員6,264円		30人	37人	35人	0人
日本看護協会ホームページ参照	看護職の勤務環境の改善につながる夜勤・交代制勤務ガイドライン導入に向けた基本的な考え方を理解する。	会 員2,052円 非会員3,132円		30人	23人	23人	1人
	看護職の勤務環境の改善につながる夜勤・交代制勤務ガイドライン導入に役立つ実践的な方法を学ぶ。	会 員2,052円 非会員3,132円		30人	23人	23人	1人
石井美恵子 東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 准教授	1.看護管理者として必要な災害看護における知識を深め、管理者としての役割を学ぶ。 2.施設における災害時の緊急対応について学び、危機管理能力を養う。 3.机上シミュレーションを通して、看護管理者としての具体的な対応ができる。	会 員4,000円 非会員8,000円		80人	16人	15人	0人
				200人	124人	119人	2人

看護管理研修Ⅱ

	研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	学習段階・受講条件
セカンドレベル公開講座	看護組織管理論 看護管理に必要な知識体系	8/8(月)	受付9:00～ 9:30～16:30	8/1～8/15	新潟県看護 研修センター	①看護部長、副看護部長に相当する 職位にある者 ②ファーストレベルまたはセカ ンドレベル教育課程修了者で 看護師長に相当する職位にあ る者※人的資源活用論は2日 間受講可能な者
	人的資源活用論(2) ・看護人事 ・労務管理 ・人材を活かす看護マネジメント	8/23(火) 8/24(水)	受付9:00～ 9:30～16:30		新潟県看護 研修センター	
	医療経済論 看護サービスにおける経済性	7/6(月)	受付9:00～ 9:30～16:30		新潟県看護 研修センター	

認定看護管理者教育

	研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	対 象
認定看護管理者研修	ファーストレベル	7/21(火)～ 11/13(金) 分散方式 28日間	全コース 9:30～16:15	8/1～8/15	看護研修セン ター	ホームページ参照
	セカンドレベル	8/2(火)～ 7/16(木) 集中方式 33日間	全コース 9:30～16:30	8/1～8/15	看護研修セン ター	ホームページ参照

医療安全管理者養成研修

	研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	学習段階・受講条件
医療安全管理者養成研修	新)医療安全研修修了者交流会Ⅰ	7/27(月)	受付13:00 13:30～16:30	8/1～8/15	新潟県看護 研修センター	医療安全管理者
	新)医療安全研修修了者交流会Ⅱ	H28/7/22(金)				
	医療安全管理者フォローアップ研修	7/16(木)	受付9:30 10:00～16:00	8/1～8/15	新潟県看護 研修センター	厚生労働省の医療安全管理者養 成研修要件を満たしている者
	医療安全管理者養成研修(49時間) e-ラーニング講義(15項目33時間)	8/1～11/30 (期間4カ月)	申込先: 学研ナーシングサ ポート http://gakken-ns.p FAX:03-6431-1414		自宅	①医療安全管理者の役割を担う 者または今後、担う予定のある 者 ②全コース受講できる者③上司 推薦がある者 ①～③の条件を満たす者
	第1回 集合研修(8時間)	10/1(木)	1、2回とも 受付8:30 9:00～18:00	8/1～定員 に満たる迄	新潟県看護 研修センター	
	第2回 集合研修(8時間)	11/12(木)				
	医療安全ネットワーク支援研修会	12/14(月)	受付12:30 13:00～16:30	11/1～11/15	新潟県看護 研修センター	

災害看護研修

	研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	対 象・定員
災害支援ナース養成研修	インターネット配信研修(リアルタイム) 災害医療と看護(基礎編) ※災害時の看護支援活動及び災害支援ナース育成に連動した研修	7/9、10 (木、金)	受付9:00 9:30～16:30	8/1～8/15	新潟県看護研 修センター	レベルⅠ～Ⅲ
	災害支援ナース強化研修(登録更新)	8/5、6 (水、木)	1日目受付9:30 10:00～16:00 2日目受付9:00 9:30～16:00	7/1～7/15	新潟県看護 研修センター	災害支援ナースに登録した者で 継続して登録し、活動できる者
	災害支援ナース養成研修(実践編)	11/6、7 (金、土)	1日目受付9:30 9:30～16:00 2日目受付9:00 9:30～16:00	10/1～10/15	新潟県看護 研修センター	①新潟県看護協会員、実務経験5 年相当 ②インターネット配信研修「災害 医療と看護(基礎編)」修了者 ③災害支援ナース登録を希望す る者

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
太田 加世 看護師のためのコンサルティング ファーム シーフェン代表	看護管理者に必要な看護マネジメントの知識体系として重要な要素を学ぶ。自己の看護マネジメントを振り返り今後の実践に活かす。			20人	15人	15人	0人
大久保清子 福井県済生会病院 参与 日本看護協会副会長	組織の理念、経営目標を達成するための中心的要素である人材確保・育成・活用等、人的資源管理に必要な知識について理解する。また、人的資源活用のためのマネジメントを労務管理と共に理解し、スペシャリストの活用について具体的方法を理解する。	各コース 会員6,000円 非会員12,000円		20人 20人	17人 18人	17人 18人	0人 0人
高島 尚子 日本看護協会医療政策部 医療制度課 診療報酬担当専門職	医療経済の構造・現状について学び、変革が進む医療システムについて理解できる。診療報酬制のしくみと看護の評価について理解できる。			20人	12人	12人	0人
				80人	62人	62人	0人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
ホームページ参照	1.看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。 2.看護を提供するための組織化並びその責任の一端を担うために必要な知識・技術・態度を習得する。 3.組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力を高める。	会員91,000円 非会員182,000円 修了審査料 21,000円	詳細は新潟県看護協会ホームページにて案内	80人	105人	80人	0人
ホームページ参照	1.第一線監督者または中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。 2.施設理念ならびに看護部門の理念との整合性を図りながら担当部署の看護目標を設定し、その達成をめざし看護管理が展開できる能力を高める。	会員200,000円 非会員400,000円 修了審査料 30,000円		30人	26人	26人	0人
				110人	131人	106人	0人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
ファシリテータ:医療・看護安全委員 石山 綾 済生会新潟第二病院	1.交流会を通じ、医療安全管理ネットワーク新潟の活動を知り連携を深める。 2.医療安全に関する知識や情報を共有し、スキルの向上に繋げることができる。	無料	詳細は新潟県看護協会ホームページにて案内	30人 30人	14人 9人	14人 9人	0人 0人
樋口 敦子 立川メディカルセンター 看護師 確保対策室長兼教育担当マネージャー	医療安全管理者及び推進者が医療安全を推進するための知識、情報を共有し、今後の業務に役立てることができる。	会員2,000円 非会員4,000円	※要件を満たしていれば看護職以外の者も参加可	40人	23人	24人	0人
プログラム参照	医療安全管理者に必要な知識・方法について学習し、自施設における医療安全管理に活かすことができる。	会員30,000円 (税別) 非会員60,000円 (税別)	※看護職以外の医療職者も受講可能 ※株式会社学研メディカルサポート共催	50人	75人	73人	0人
河野龍太郎 自治医科大学メディカルシミュレーションセンター長 医療安全学教授	事例分析の意義と手法 RCA分析の実際(ImSAFERの演習)	※事前振込	※昼食を用意しています	再掲 50人	再掲 75人	再掲 73人	0人
杉山 良子 パラマウントベッド㈱ 技術開発部 主席研究員	医療安全管理者の役割と活動の実際 グループワーク科目13の演習を含む			再掲 50人	再掲 75人	再掲 73人	0人
	・輸液セット・ポンプについての使用上の注意点 ・輸液セットポンプのインシデント事例に関する体験学習			20人	13人	13人	0人
				170人	134人	133人	0人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
日本看護協会ホームページ参照	「災害医療と看護」の基礎編と位置づけ、災害支援に必要な災害医療と看護の基礎知識及び災害発生時から長期的支援について学ぶ。	会員6,156円 非会員9,288円		80人 80人 (2日目)	48人 48人 (2日目)	48人 48人 (2日目)	1人
石井美恵子 東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 准教授	1.災害支援ナースの役割機能を再確認し、被災地や被災者にとって有効に機能できる能力を維持する。 2.災害支援ナースとして、他者との協働、自律的な活動の重要性を再確認する。	会員4,000円	詳細は新潟県看護協会ホームページにて案内	80人 80人 (2日目)	53人 53人 (2日目)	52人 51人 (2日目)	1人
三澤 寿美 東北福祉大学保健学科 教授 災害看護委員	1.看護専門職の災害時支援者として、被災地や被災者にとって有効に機能できる能力を習得する。 2.災害支援ナースとして、他者との協働、自律的な活動の重要性を認識する。	会員4,000円		80人 80人 (2日目)	29人 29人 (2日目)	30人 30人 (2日目)	0人

研修会名	開催	時間	応募期間	会場	対象・定員
災害支援ナース指導者研修(指導者編)	8/13(火) 8/16(水)	1日目受付9:00-9:30 30~16:00 2日目受付9:00-9:30 9:30~16:00	8/1~8/15	新潟県看護研修センター	①災害支援ナース登録者であり、登録を1回以上更新している者(何らかの災害支援経験を有することが望ましい)

### 新潟県看護協会看護学会

開催日	会場	時間	メインテーマ・内容
平成27年11月27日(金)	朱鷺メッセ	受付9:00 9:40~16:00	「地域を支える看護の力」 特別講演:名郷直樹(武蔵国分寺公園クリニック院長) 看護フォーラム:任和子(京都大学大学院医学研究科 教授)

### 職能研修

研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	対象
保健師職能委員会 産業看護師・行政保健師等合同研修会	8/17(水) 8/18(木)	13:00~16:00		新潟県看護研修センター	産業看護職・県内保健師(会員、非会員)
保健師情報交換会	11/7(土)	13:00~16:00		新潟県看護研修センター	県内保健師(会員、非会員)
助産師職能委員会 部:助産師実践能力強化支援事業 部:助産師職能情報交換会	11/19(木) 11/19(木)	13:00~16:00		新潟県看護研修センター	助産師
施設・開業助産師連携研修会	H28/3/5(土)	13:30~16:00		新潟県看護研修センター	助産師
看護師職能委員会Ⅱ Ⅱ 合同 病院領域意見交換会	8/17(水) 11/21(土)	10:00~16:00	9/20~10/20	新潟県看護研修センター	中堅看護師
看護師職能委員会Ⅱ 研修会	8/17(水) 7/4(土)	9:30~16:00		新潟県看護研修センター	看護師
研修会グループケア生と死を考える	11/20(金)	9:30~16:00		新潟県看護研修センター	看護師

### 思春期・エイズ相談事業

研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	対象
思春期保健研修会 ①思春期のセクシャル・ウェルネスをマスター ペーシオンの視点から考える。 ②LGBTの理解と相談時の対応・支援の在り方 を考える	H28/2/6(土)	13:30~16:30	12/7~2/4	新潟県看護研修センター	思春期・エイズ相談事業に従事する相談員及び看護学生、思春期保険に関心のあるもの

### WLB推進事業

研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	対象
看護職のワーク・ライフ・バランスワークショップ	8/24(月)PM	13:00~16:30	8/2~8/31	新潟県看護研修センター	WLBワークショップの参加を考えている看護職 60人
看護職のワーク・ライフ・バランス 基本的な考え方(公開)	8/24(月) 公開講座AM	9:30~12:00 9:30~16:30			
看護職のワーク・ライフ・バランスワークショップ	8/25(火)				
看護職のワーク・ライフ・バランス 推進ワークショップ佐渡	9/15(火)PM	13:00~16:30	8/2~8/31	厚生連 佐渡総合病院	ワークショップ参加施設職員 40人
看護職のワーク・ライフ・バランス 基本的な考え方(公開)	9/15(火) 公開講座AM	9:30~12:00 9:30~16:30			
看護職のワーク・ライフ・バランスワークショップ	9/16(月)				
看護職の WLB推進合同情報交換会	11/17(火)	9:30~16:30	8/2~8/31	新潟県看護研修センター	40
看護職のワーク・ライフ・バランス推進ワークショップ	H28/3/3(木)	9:30~16:30	8/2~8/31	新潟県看護研修センター	40

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
石井美恵子 東京医療保健大学 東が丘・立川看護学部 准教授	看護専門職の災害時支援者として、被災地や被災者にとって有効に機能できる能力を備える災害支援ナースの育成者としての知識を習得する。	会員4,000円	詳細は新潟県看護協会ホームページで案内	25人 25人 (2日目)	15人 15人 (2日目)	15人 15人 (2日目)	0人
				265人	145人	145人	2人

演題申込・論文投稿規定・参加申し込み		参加費	定 員	申込数	受講数	非会員	
☆演題申込方法 ※演題申込期間 8/16～ 8/17 ※演題採否のお知らせ 8月上旬 ※集録論文の投稿 7/31 ※抄録論文指導 8/1～8/31 ※集録論文最終稿提出 8/10 ※集録集発送 11月上旬 ☆一般参加受付期間 8/1～ 8/30 ※詳細は新潟県看護協会ホームページで案内 <a href="http://www.niigata-kango.com/">http://www.niigata-kango.com/</a>		会 員3,000円 非会員5,000円 学 生1,500円	800人	一般 397人 学生 322人	一般 386人 学生 317人	320人	
				800人	719人	703人	320人

講 師	内 容	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
話題提供:未定、 講演:㈱ACKグループ 西内千代子氏	話題提供、講演、グループワーク	詳細については新潟県看護今日かホームページ及び郵送にて案内	50人	37人	40人	0人
			30人	12人	36人	0人
話題提供:未定	話題提供、グループワーク		30人	30人	30人	1人
			60人	61人	64人	0人
地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院 看護科長 佐藤良枝先生	「助産力アップ！～院内助産のお産とは？システム作りはどうする？～」(仮題) 目的:助産実践の技術を向上するための支援活動やシステムづくりと情報交換		30人	22人	22人	1人
			30人	22人	20人	1人
新潟県下の認知症看護認定看護師	入院中の認知症患者への対応について 意見交換会		50人	42人	45人	0
			100人	150人	140人	12人
	地域包括ケアシステムの理解		1に 合算	1に 合算	1に 合算	
			100人	62人	58人	
	地域包括ケアシステム実践施設講義	100人	93人	92人		
			1080人	925人	970人	15

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
①中野 有沙 株式会社 典雅 ②有森 直子 新潟大学大学院保健学研究所	最近の性に関する話題について学ぶ機会とし、思春期保健や性感染症予防等に関する対応能力向上を目指す	無 料		30人	23人	20人	1人
				30人	23人	20人	1人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員	
田林 義則 山形県三友堂病院財務部部长	WLBを理解し労働環境改善に活用する。 WLB実現による働き続けられる職場づくり支援体制を構築し、労働環境改善への継続的な取り組みを促進する。 WLB実現による働き続けられる職場づくり支援体制を構築し、労働環境改善への継続的な取り組みを促進する。	無 料	公開講座は新潟県看護協会ホームページにて案内	40人	42人	42人	0人	
				20人	15人	15人	4人	
田林 義則 山形県三友堂病院財務部部长		20人		16人	16人	0人		
		20人		12人	12人	0人		
(石川県看護協会他2施設より)					再掲42人			
					再掲16人			
40人	44人	45人		0人				
田林 義則 山形県三友堂病院財務部部长	ワークショップ後の取り組みについて情報共有とともに意見校を行い、今後の取り組みに活かす。				40人	51人	44人	7人
				180人	180人	174人	11人	

ナースバンク事業

研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	対象・定員
再就職支援講習会 ●復職支援基礎コース	6/24、6/25、7/1	受付9:00 9:30～16:30	各受講日の 週間前	新潟県看護 研修センター	看護師等の免許所有者で現 在看護業務についていない 者で、将来の就業及び講習会 の受講を希望した者 定員1～30人(新潟医療人 育成センターのみ20人)
	7/1			新潟医療人 育成センター	
	8/10、8/11、8/12			新潟県立大学看護研究交 流センター	
	8/22、8/28、8/29			長岡看護福祉専門学校	
	12/8、12/9、12/10			新潟県看護 研修センター	
	12/10			新潟医療人 育成センター	

研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	対象・定員
再就職支援講習会 ●復職体験コース	6/1	中越	各受講日の 1週間前 受付9:00 9:30～ 16:30	東部どんぐり保育園	看護師等の免許所有者で現 在看護業務についていない 者で、将来の就業及び講習会 の受講を希望した者 定員1～16人 *各施設により異なる
	6/18、7/30 8/20、10/8	下越		猫山宮尾病院	
	6/24	中越		ふるまい訪問看護 リハビリテーション	
	6/30、8/31	上越		デイサービスセンター エンジョイ 倶楽部もんぜん	
	7/8	中越		長岡中央総合病院	
	7/9、12/2	下越		白根大通病院	
	7/28	下越		西新潟中央病院	
	7/29	上越		知命堂病院	
	7/30	上越		ショートステイだいこち	
	7/31	上越		知命堂病院 訪問ステーション	
	8/5	下越		新潟中央病院	
	8/6、7	中越		新潟病院	
	8/19	下越		江東園	
	8/25、26	中越		富永草野病院	
	8/31、9/1、1/26、27	下越		肴町病院	
	9/15	下越		新潟脳外科病院	
	9/17、10/29	下越		新潟臨港病院	
	9/18	下越		木戸病院	
	9/30	中越		県立精神医療センター	
	10/13	中越		燕労災病院	
	10/22	中越		訪問看護ステーション さんわ	
	10/27、30	中越		てまり 訪問看護ステーション	
	10/28	中越		こぶし 訪問看護ステーション大島	
	11/5、6	中越		県立吉田病院	
11/12、13	中越	済生会三条病院			
11/12、13	下越	新潟大学 歯学総合病院			
11/26	下越	黒埼病院			
1/15	下越	すずらん 訪問看護ステーション			

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
鈴木美智子(立川綜合病院総看護師長) 他6人	県内に住居を有する未就業者看護職員に 対し看護の動向及び業務に必要な知識及 び技術の研修を行い、就業を促進すると 共に、資質の向上を図る。	無 料		20人	16人	16人	未確認
板垣 広美(新潟大学病院副看護部長) 他5人				20人	17人	17人	
古澤 弘美(上越地域医療センター看護部長) 他9人				20人	16人	16人	
丸山 敬子(長岡看護福祉専門学校副校長) 他4人				10人	4人	4人	
三膳 景子(木戸病院医療安全管理室 室長) 他6人				10人	5人	5人	
板垣 広美(新潟大学病院副看護部長) 他5人				10人	6人	6人	
				20人	19人	19人	
				20人	19人	19人	
				20人	14人	14人	
				20人	16人	16人	
				220人	162人	162人	

上越15 中越64 下越83

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
各施設指導者	県内に住居を有する未就業者看護職員に 対し看護の動向及び業務に必要な知識及 び技術の研修を行い、就業を促進すると 共に、資質の向上を図る。	無 料			1人	1人	未確認
					3人	3人	
					1人	1人	
					2人	2人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					1人	1人	
					2人	2人	
					1人	1人	
					2人	2人	
	1人	1人					
	1人	1人					
					33人	33人	

上越5 中越13 下越15

訪問看護推進事業

研修会名	開催日	時間	応募期間	会場	対象・定員
訪問看護従事者研修会 (実践編)	4/18	受付9:45 9:45～15:45		新潟県看護研修センター ※5/23: 長岡赤十字病院	訪問看護に従事している看護職(新任者、今後従事予定者も含む)で、全日受講できる者50人
	公開				
	5/23				
	公開				
	5/29				
	6/13				
	6/19				
	6/27				
	公開				
	7/11				
	7/18				
	公開				
	7/24				
	8/1				
公開					
8/27					
8/29					
訪問看護従事者研修会 (管理編)	8/8	受付9:45 9:45～15:45		新潟県看護研修センター	訪問看護に従事している管理者、または指導的立場にあり、全日受講できる者25人
	公開				
	9/5				
	公開				
	9/11				
	公開				
9/12					
9/26					
公開					
10/24					
公開					
在宅看護研修会	10/3	受付9:45 9:45～15:45		潟県看護研修センター 訪問看護ステーション 実習(2日間)	病院・診療所等に勤務する看護職員で、全日受講できる者50人
	公開				
	10/17				
	公開				
	11～12 ST実習				
	11/14				
公開					
12/19					
公開					

看護職員実務研修

開催支部名	開催日	時間	会場	内容
南魚沼支部	8/22(土)	受付12:30 13:00～16:00	長岡産業交流会館「ハイブ長岡」	倫理フィジカルアセスメント
村上支部	9/12(土)	受付12:30 研修13:00～16:00	県立坂町病院	看護倫理褥瘡ケア
柏崎支部	9/26(土)	受付12:30 研修13:00～16:00	柏崎市健康管理センター	看護倫理感染性胃腸炎
新潟西支部	11/28(土)	受付12:30 研修13:00～16:00	新潟県看護研修センター	看護倫理感染管理

出前研修

開催施設名	開催日	時間	会場	内容
新潟南病院	H27/ 8 / 8 (木)		開催施設と同じ	感染管理カテサーバランス
特別養護老人ホームうちの桜園	H27/ 8 /18 (火)			感染管理インフルノロ
特別養護老人ホームあかね園	H27/ 8 /19 (水)			褥瘡ケア
特別養護老人ホーム山王苑にいがた	H27/ 8 /21 (金)			感染管理胃腸炎
東新潟病院	H27/ 8 /26 (水)			看取り
介護老人保健施設でらどまり	H27/ 8 /26 (水)			看取り
特別養護老人ホーム虹の里	H27/ 8 /26 (水)			感染管理インフル
知命堂病院	H27/ 8 / 9 (水)			看取り
とやの中央病院	H27/ 8 /16 (水)			医療安全転倒骨折
新潟リハビリテーション病院	H27/ 8 /17 (木)			認知症
介護老人保健施設相川愛広苑	H27/ 8 /18 (金)			看取り
聖園病院	H27/ 8 /28 (月)			感染管理手指消毒
介護老人保健施設新井愛広苑	H27/10/ 8 (火)			感染管理インフルノロ
特別養護老人ホーム白鳥荘	H27/10/21(水)			感染管理
豊浦病院・豊浦愛広苑	H27/10/22(木)			感染管理個人防具
糸魚川地域振興局健康福祉部	H27/10/27(火)			感染管理

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
西片 一臣 皮膚排泄ケア認定看護師（新潟医療センター） 他 14人	1.訪問看護に従事する看護職員が、訪問看護の実践に必要な最新の知識・技術を学ぶ。 2.利用者や家族が安心して満足できるケアが提供できる。	無 料	実践	50人	53人	53人	
			公開	50人	170人	170人	
講師:萩原 正子（オフィス萩原代表） 他 5人	訪問看護管理に必要な知識・技術を学び安全で質の高い訪問看護のあり方を考える。	無 料	管理	25人	31人	31人	未確認
			公開	25人	13人	13人	
塚田 裕子（在宅ケアクリニック川岸町院長） 他 5人	病院・診療所に勤務する看護職員が在宅で継続した医療・看護サービスを提供できるよう必要な知識・技術を学ぶ。	無 料	在宅	50人	19人	19人	
			公開	50人	47人	47人	
実数103				公開230	250人	333人	333人

講 師	ね ら い	受講料	備 考	定 員	申込数	受講数	非会員
清塚厚子 重本ゆう子	五日町病院看護副部長 三島病院看護部長	無 料	詳細は新潟県看護協会ホームページ及び郵送にて案内	60人	98人	85人	61人
安藤とよ子 須貝優子	県立坂町病院看護部長 県立坂町病院 皮膚・排泄ケア認定看護師			60人	53人	41人	31人
花井より子 徳原伸子	国立病院機構新潟病院看護部長 厚生連柏崎総合医療センター看護師			60人	64人	64人	58人
布施賢一 川上朱美	国立病院機構新潟病院看護部長岡赤十字 病院感染管理認定看護師			60人	108人	77人	60人
				240人	323人	267人	210人

他職種497 Ns227 非会員124

講 師	ね ら い	受講料	備考(参加Ns数)	定 員	申込数	受講数	非会員	
大崎角栄	新潟市民病院	無 料	9人	20人	11人	11人	0人	
佐藤清美	済生会新潟第二病院		4人	20人	22人	22人	4人	
児玉幸枝	県立十日町病院		3人	60人	45人	45人	2人	
小池明美	立川総合病院		5人	20人	37人	37人	5人	
平澤和美	済生会新潟第二病院		31人	60人	64人	64人	5人	
多賀裕美	長岡西病院		14人	35人	38人	38人	10人	
佐藤孝枝	信楽園病院		6人	40人	41人	41人	6人	
樋口伸子	県立中央病院		54人	60人	77人	77人	54人	
石山綾	済生会新潟第二病院		38人	90人	90人	90人	9人	
室星新也	長岡赤十字病院		18人	30人	36人	36人	5人	
後藤和美	厚生連佐渡総合病院		5人	50人	35人	35人	3人	
鈴木潤子	西新潟中央病院		9人	30人	49人	49人	3人	
廣井瑞江	小千谷総合病院		6人	20人	33人	33人	6人	
加藤留美	西新潟中央病院		3人	30人	32人	32人	2人	
滝澤由佳	上越地域医療センター		19人	60人	79人	79人	9人	
廣田光恵	糸魚川総合病院		3人	30人	35人	35人	1人	
				227人	648人	724人	124人	

8,085人	6,788人	6,563人	非会員
定員	申込数	受講数	799人



# 新人研修

【 新人研修 ～自分を知らう！明日につなげるコミュニケーション～ 】 研修会 評価

開催日	1回目:平成27年8月10日 (月)8月11日(火) 2回目:平成27年8月31日 (月)9月1日(火)
開催場所	1回目 :ガレッソホール 2回目:メディアシップ
研修目的 または 目標	目標 1. コミュニケーションの基本スキルを学ぶ。 2. コミュニケーションスキルを学び自己のスタイルを知ることができる。 3. ストレスマネジメントができる。
対象参加人数	1回目:1日目 99人 2日目 98人 2回目:1日目 94人
研修内容	講義、演習 1. コミュニケーションスキル 2. チームの対人関係 3. 自己コントロール感覚を高める
結果・評価	1. 運営について ・ 自施設の人とは離れて座ってもらった。名前シールを胸に貼付した。 ・ ホワイトボードを前に4台設置。 2. 受講生について ・ 当日参加希望者が4人あり追加とした。 ・ 2日目に資料やアンケートを忘れた受講生がいた。 ・ 活発な意見交換ができていた。 ・ 1日目の終了時に質問用紙を配布したが提出は1人のみであった。 3. 研修内容について ・ 参加型研修。 ・ 筋弛緩法などリラグゼーション方法も取り入れ体験した。 ・ 1回目のアンケート結果を講師に伝えたところ、内容を一部変更し、適宜休憩を設ける等の改善をいただいたため、2回目の方が受講生の満足度が上昇した。 4. アンケート結果 ・ 研修後の理解度は「よくできた」が80%、満足では 「満足できた」が80%であり、共に目標達成とした。 ・ 自分を見直すきっかけとなりストレスとの付き合い方を学べた、コミュニケーションスキルを得られた、という意見があった一方、もっと看護の場面に当てはめた具体的な方法を知りたかったという意見もあった。
企画の評価	・ 「整合性があった」と回答した受講者が80%割以上 : 達成
次年度に向けての検討課題	課題は特になし。 次年度も同様の研修は必要と思われる。
担当者	◎稲波 千加子 嶋倉 文子 樋山 幸子

【新人助産師スキルアップ研修～胎児心拍モニタリングのポイント～】 研修会 評価

開催日	平成27年9月 10 日(木)
開催場所	看護研修センター
研修目的 または目 標	分娩監視モニタリングのポイントを知り、助産診断・提供ケア・記録とのつな がりを理解することができる。
対象参加 人数	募集定員40人 参加人数20人
研修内容	講義①「胎児心拍モニタリングのポイント」 済生会新潟第二病院 佐野真由美 助産師 講義②「助産記録とは」同 清水千香子助産師 講義を受けた後グループ討議・発表し、講師よりアドバイスを受ける。
結果・評 価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運営について <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にグループ別の形態になり資料も配布したため、運営しやすかった。</li> </ul> </li> <li>2. 受講生について <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を持って受講しており熱心に受講していた。</li> </ul> </li> <li>3. 研修内容について <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加型研修。講義の後に、グループワークを実施。事例を通じてモニターの読み方を学んだ。</li> <li>・1年目の参加者がほとんどだったため内容が難しく、初めは意見が出にくかったが徐々に活発な討議が見られた。話し合った内容を模造紙にまとめ発表し合った。</li> </ul> </li> <li>4. アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修の理解度は「理解できた」「ほぼ理解できた」が100%であり目標達成とする。</li> <li>・研修の満足度も「満足できた」「ほぼ満足できた」が100%であり目標達成とする。</li> <li>・モニタリングの判読に自信がなかったが事例を通じて判読と対応について理解が深められたという意見が多かった。</li> </ul> </li> </ol>
企画の評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画の評価は、ねらいとの「整合性があった」が94.7%で達成とする。</li> </ul>
次年度に 向けての 検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数は20人程度がちょうどよい。</li> <li>・質問時間を必ず設けること。</li> </ul>
担当者	稲波千加子 嶋倉文子 ◎樋山幸子

# 看護実践研修

看護職としての態度・感性を磨く研修

看護共通研修

## 【 看護倫理（基礎編）～看護師の倫理綱領って私達の看護にどう結び付くの～】研修会 評価

開催日	平成 27年 5月 19 日 (火曜日)
開催場所	新潟県看護協会研修センター
研修目的 または目標	1. 看護師として倫理綱領を理解し自分の言葉で現場で起きる問題を「何が問題なのか」について言語化することができる。 2. 臨床の現場において日常業務の中で倫理上の問題点に気づくことができる。
対象参加人数	募集 100人 応募 106人 受講 103人
研修内容	講師 新津医療センター病院 看護部長 認定看護管理者 本間美知子 10:00~12:00 講義 13:00~14:10グループワーク 事前課題を共有しA3用紙にまとめる 14グループ 7~8人 14:10~15:00発表 1グループ3分程度で発表 15:00~15:15質疑応答 事前課題、グループワークの記録は提出
結果・評価	評価方法・評価基準・目標達成度・受講者の満足度など 1. アンケート結果より 「理解できた」「ほぼ理解できた」92%、「満足できた」「ほぼ満足できた」93%、「整合性があった」92%により研修の目的は達成できたと考える。 2. 事前課題では日常の場面から倫理上問題と感ずる場面とその理由について振り返ることができ、それを基にグループワークで共有できていた。研修後アンケートでは「業務の中で倫理的問題に気づくことができた。また、グループワークにより、ほかの病院での事例を聞くことができて良かった。」「看護師の言動が患者に大きな影響を与えることが分かった。」の意見があった。
企画の評価	・ 午前の講義では、グループワーク形式の机の並びで講義が聴きにくい様子が見られた。 ・ 看護倫理について事例を用いた説明やマンガを取り入れた資料があり、わかりやすい講義だった。 ・ グループワークでは事前課題を通して、なぜそれが問題なのかまで気づき発表できていた。
次年度に向けての検討課題	・ 事前課題シートは提出と研修後講師から案内があり、研修案内にもアナウンスが必要と思われる。
担当者	◎柴田、栗崎

## 【 看護倫理（応用編）～共に考えよう看護倫理～】研修会 評価

開催日	平成27年10月5日 (月曜日)
開催場所	看護研修センター
研修目的 または目標	日々の看護実践で感じる倫理的ジレンマについて専門職としての判断基準・現場での適応する方法を学び、実践に活かすことができる。
対象参加人数	学習段階レベル I～III 募集人数 80人 応募人数 65人 参加人数 63人 (2人体調不良の為欠席)
研修内容	午前:講義 講師 本間千代子 新潟医療福祉大学名誉教授 午後:演習 11グループに分かれて、各自の事例から価値の対立、どうしたらよかったのかについて検討。
結果・評価	評価方法・評価基準・目標達成度・受講者の満足度など 1. アンケート結果より理解度は、「理解できた」「ほぼ理解できた」82%であり、8割以上にて達成できた。満足度も「満足できた」「ほぼ満足できた」が81%だった。整合性は80%となった。 2. 受講者の反応 難しいという意見が5人いた。グループワークは同じ思いを共有でき意見を聞ける場として有意義であるという意見が7人名あった。普段の業務を怒られている気がして嫌な思いをしたという意見が1人いた。
企画の評価	・ 倫理的問題に対して、どのように現場で解決していくかを学ぶことができ、次年度も継続すべき研修である。
次年度に向けての検討課題	・ 倫理綱領を忘れた方が13名、事例を持ってこない方が数名いた。受付で確認し、協会の倫理綱領を貸し出し対応した。次年度もその準備が必要である。
担当者	柴田百合子、◎山口真希

【 看護職の労働環境と労働災害に対する対策 】 研修会 評価

開催日	平成27年5月 23 日(土)
開催場所	新潟県看護協会研修センター 3階大研修室
研修目標	看護職が元気で働く 為に、労働災害の知識やその対策を学ぶ。
対象参加人数	募集人数 120名人 応募人数63名人 参加人数61名人
研修内容	講師:松月 みどり 日本看護協会常任理事 講義:看護職の労働環境と労働災害に対する対策 労働安全衛生法 労働安全衛生規則 妊産婦の夜勤 腰痛防止対策
結果・評価	<p>1. 運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日の午後2時間という時間設定の為、受講者は募集数の50%であった。</li> <li>・当日の進行ではトラブルはなかった</li> <li>・空調・照明は問題なし</li> </ul> <p>2. アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者61人の属性について</li> </ul> <p>所属施設は88%が病院であった。12%は介護施設、訪問ステーションであった。職種では、看護職助産師職が受講した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の理解度では、90%以上が出来たほぼ出来たと回答した。</li> <li>・満足度も理解度同様に90%以上が出来たほぼ出来たと回答した。</li> <li>・学習課題の達成度は84%であった。</li> <li>・記述内容から多くの学びがあった事が推察された。</li> </ul> <p>以下に受講者の感想意見を記した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○とても丁寧に説明があり講義の内容は理解できた。仕事では腰痛を常に感じていたが生活のヒントが得られたので活かしたい。</li> <li>○職場では腰痛の為、離職する者がいる。労働環境を整えることに手をこまねいてはいけなと感じた。</li> <li>○費用や患者を移動させる行為を行う際に、腰痛予防を理由に看護職が機械や器具を使用することにためらいがあった。長く元気で働くためには、必要な機器を整えてもらうためにも、経営者や管理者にきちんと発信していくことが重要だと思えた。</li> <li>○沢山のヒントをもらった研修だった。</li> </ul>
次年度に向けての検討課題	来年度も同研修は必要である。
担当者	◎新潟県看護協会

【 キャリアアップ支援 】研修会 評価

開催日	平成27年 6月 5日 (金曜日) 平成27年 6月 6日 (土曜日)
開催場所	新潟県看護研修センター
研修目的 または 目標	看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し、最善の看護が提供できる能力を養う。 ・自分の強みを発見する。 ・将来のキャリアを描く。
対象参加人数	参加57人 (アンケート回答56人)
研修内容	横山恵子 埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科教授 長谷川真美 東都大学ヒューマンケア学部看護学科教授 テーマ「専門職としての成長のために」 ～何をめざして働くのか、看護職としての未来を描こう～ 6/5:セッション1～7(コミュニケーションの力、チーム作り、私と仕事、キャリアデザイン、コミュニケーションスタイル、私の強み、リフレクション) 6/6:セッション8～14(チーム小手調べ、キャリアの選択、私の夢、私の使命、未来の私、仲間へのメッセージ、リフレクション)
結果・評価	評価方法・評価基準・目標達成度・受講者の満足度など 理解度の評価では「理解できた」「ほぼ理解できた」92.8%であり、満足度では「満足できた」「ほぼ満足できた」が94.6%で、研修内容の目標は達成できた。また、学習課題の評価として「達成できた」「ほぼ達成できた」が90.0%であった。
企画の評価	目的・目標の妥当性、講師・内容の妥当性 研修の目的である看護実践に必要な知識、技術、態度の習得などについて沿った内容であり、参加者の反応もよかった。 講師は複数年継続しており、毎回参加者の反応を見ながら展開していた。 アンケートにおいても研修のねらいとの「整合性があった」とする評価が87.5%であった。
次年度に向けての検討課題	グループワークは各グループとも活発に行われ、時間が不足となることもあった。参加者からは、各セッション毎に質問コーナーがあるとよいという感想があった。 参加人数が定員より少なかったが、会場のスペースとしては適した人数であった。グループごとの名簿があると良いと思う。また予め当日内容の流れが分かる案内が欲しかったという感想もあった。 講師からは次年度以降、内容をバージョンアップしたいと感想があった。
担当者	◎田中靖子、鈴木春美

【 ストレスマネジメント 】研修会 評価

開催日	平成27年6月18日 (木曜日) 10:00～12:00 平成27年6月26日 (金曜日) 10:00～12:00
開催場所	新潟県看護研修センター
研修目的 または 目標	心の健康づくりにつながるセルフコントロール方法を理解し、自らが実践できる。
対象参加人数	平成27年6月18日 (木曜日) 44人 (アンケート回答43人) 平成27年6月26日 (金曜日) 42人 (アンケート回答41人)
研修内容	講義「感情労働とセルフコントロール」 講師:海老田大五郎 新潟青陵大学准教授 資料:ストレスから逃げるのではなくストレスと戦うのでもなく
結果・評価	評価方法・評価基準・目標達成度・受講者の満足度など 1回目:レベルⅠ～Ⅱ 理解度では「理解できた」「ほぼ理解できた」が44.1%、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」が55.8%であり研修の目標に到達できなかった。 満足度も「満足できた」「ほぼ満足できた」が46.5%、「あまり満足できなかった」「満足できなかった」が51.1%と内容への満足も低かった。 2回目:レベルⅢ～Ⅳ 理解度では「理解できた」「ほぼ理解できた」が82.9%、「あまり理解できなかった」「理解できなかった」が17.0%であり研修の目標は達成できた。 満足度も「満足できた」「ほぼ満足できた」が85.3%、「あまり満足できなかった」「満足できなかった」が14.6%であった。 参加者のレベルで評価に差が出ていたが、アンケートの自由記載では難しい内容であったという感想があった。 グループワークは楽しみながら徐々に活発な意見交換ができていた。
企画の評価	研修のねらいと講義内容があっていないという感想が複数あり、アンケートでも整合性の項目で1回目は「整合性がない部分があった」55.8%「整合性がなかった」9.3%であり、2回目では「整合性がない部分があった」41.5%「整合性がなかった」2.4%であり目的と内容にかい離があった。 講師自身「確信犯的に難しい内容にした」と説明しており、基礎知識が十分でないという理解が難しい内容であったと思われる。
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいに沿った解りやすい内容での講義を依頼する。</li> <li>・半日研修では理解には至らず不消化という感想もあり、1日の開催も検討する。</li> <li>・2日開催で受講者の学習段階設定レベルを分けたが、同日開催で良いと考える。</li> </ul>
担当者	文責者には◎ ◎田中靖子、丸山美香、鈴木春美、稲葉千加子

提 期限厳守

【 腰痛予防の基本知識とスキル 】研修会 評価

開催日	平成27年6月25日 (木曜日)
開催場所	朱鷺メッセ スノーホールB
研修目的 または目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノーリフトと腰痛予防策に関する基本的知識を習得する</li> <li>・腰痛予防に有効な各種機器・用具の活用方法を学ぶ</li> </ul>
対象参加人数	募集人数 100名人 応募人数64名人 参加人数60名人
研修内容	<p>講師 保田 淳子 (社会法人日本ノーリフト協会 代表)</p> <p>講義タイトル「ノーリフト～腰痛予防対策とケアの質」 講義・演習(GW)</p> <p>10:00～12:00 講義</p> <p>13:00～16:00 講義・演習</p>
結果・評価	<p>1. 運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営については、開催場所の関係で、事前の打ち合わせがないため当日に説明を受け対応しなければならなかったため混乱する事があった。</li> <li>・受付時間を過ぎてもベッドの組み立てを業者が行っており、受付終了者の誘導が遅くなった (研修開始には支障なし)。</li> <li>・講師の控室のポットなどの準備、受付の設定が必要であった。</li> <li>・空調、照明については問題なし。</li> </ul> <p>2. 受講生について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GWや演習・実技が主となる研修であったため、前年度と同様に受講生のネームシールを準備し実施した。</li> </ul> <p>3. 研修内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加型研修・・・受講生はGW, 演習、実技に積極的に参加していた。</li> </ul> <p>4.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果より、研修内容はほぼ理解でき、満足度及び達成度の関しても満足・ほぼ満足、ほぼ達成できたと評価されていることから、達成できたと評価する。</li> </ul>
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修評価の達成から、企画評価達成とする。</li> <li>・業者の協力もあり多くの器具機械の搬入があり、受講者が多くの体験ができた</li> <li>・定員100人名に対して60人名の参加だったが、器具の体験や見学などからちょうど良い参加数だった。</li> <li>・1日だけの研修だけでは足りないとの意見があった。</li> </ul>
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も参加人数が今年度位であれば同じ規模の会場で行ったほうがよい</li> <li>・講師が伝えたいことが多く、1日の研修では非常にタイトで、研修時間の検討も必要</li> <li>・講師の保田氏から、ノーリフトケアベーシック研修(3日間)のセッション1の内容に相当することの案内があり、次年度研修計画の備考に付記した方がよい。</li> </ul>
担当者	◎丸山美香、浜田富士子、平井正博

## 【施設での看取り～その人らしい最期を迎えるために～】研修会 評価

開催日	平成27年6月30日 (火曜日)
開催場所	新潟県看護研修センター
研修目的 または目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期にある患者・家族に対する理解を深める</li> <li>・看取りの時の患者・家族への関わりを学び、対応する方法を学ぶ</li> </ul>
対象参加人数	51人
研修内容	<p>講義「施設での看取り」 グループワーク「各自の問題点を明確にし、明日からあなたはどのように行動するか」 講師 小池宣子 緩和ケア認定看護師(南部郷厚生病院)</p>
結果・評価	<p>1. 受講者数:50人募集のところ、35人の参加であった。また午前だけの参加者3人(仕事のため2人、体調不良1人)、15時までの参加者1人であった。</p> <p>2. 運営について:講師の事例に基づいた講義はわかりやすく、午前の講義の後の質問は多くあった。午後のグループワークは4～5人ずつの7グループとした。書記や司会は決めず、自施設の問題点や日頃感じていることをなるべく多く語るようにした。</p> <p>3. 研修内容について: 午前:座学、午後:グループワーク 座学は自由席 グループワークは4人1グループで行われた 午後:最後に1人30秒以内で「私は明日から〇〇します」と発表した。</p> <p>4. アンケート結果 94.1% アンケート結果で達成度は「達成できた」「ほぼ達成できた」 90.6% 学習課題の満足度は「満足できた」「ほぼ満足できた」96.9% 自由記載のコメントは、前向きに実践につなげようとする意見が多かったことで、達成とする。</p>
企画評価	<p>目的:ねらいとの整合性は「整合性があった」「整合性がない部分があった」が96.9% 研修評価達成から、企画達成とする。</p> <p>講師・内容:アンケート結果より、実証例などの話を加えた講義であり、とてもわかりやすかった、と高評価であった。</p> <p>プログラム・時期:出席者の経験年数が10年以上であり、時期的には問題ないと思われ、妥当である。</p> <p>研修の事前準備・当日の運営など:当日、グループ分けの依頼があったため、事務所に依頼したためスムーズに実施できた。</p>
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の社会情勢からも「施設での看取り」というテーマは重要である。</li> <li>・現在の講師が3年目であり、若い人材育成のためにも講師の検討が必要である旨、理事より講師に伝えた。</li> </ul>
担当者	◎佐藤志津子 石川映子

【 病院における包括的口腔ケアの評価～感染から守ろう看護の力で～】研修会 評価

開催日	平成27年7月18日 (土曜日)
開催場所	午前: 日本歯科大学アイヴィーホール 午後: 日本歯科大学新潟短期大学
研修目的 または目標	口腔ケアの重要性を理解し、実践で活かすことができる。
対象参加人数	学習段階レベル I～III 募集人数 80人 応募人数 109人 参加人数 59人 (2人欠席、1人申込みなかったが当日参加)
研修内容	午前: 講義「感染から護ろう看護の力で～看護師による口腔ケアと口腔機能向上訓練～」 講師 田中 彰 教授 (日本歯科大学新潟生命歯学部) 午後: 講義 演習 口腔清掃の実際とポイント 2グループに分かれて、前半後半を分け、口腔ケアの実技と、ケースの口腔アセスメントのグループワークを実施。
結果・評価	評価方法・評価基準・目標達成度・受講者の満足度など 1. アンケート結果より理解度は、「理解できた」「ほぼ理解できた」97%であり、8割以上にて達成できた。満足度も「満足できた」「ほぼ満足できた」が100%だった。口腔ケアの重要性、必要性について認識し肺炎などの合併症予防に役立つことを具体的に学べた。演習は歯科衛生士から実践的内容を一人一人が実際に行うことができ好評であった。 2. 受講者の反応 演習については、アセスメントのグループワークを少人数で行った方が意見を出しやすかった。10人のグループで司会の声も聞こえにくく活発な意見交換ができなかった。
企画の評価	・暑い時期であったが、空調が効いており、快適な環境で実施することができた。 ・講義内容については、基礎的な口腔ケアの技術から各論、リスクマネジメント、包括的口腔ケアのあり方等、現在もっとも必要とされる知識が多く、スライドに動画を取り入れて実際の手技が分かりわかりやすく構成されていた。 ・ベッドが5台、指導の歯科衛生士が6人に増えたため実習はスムーズであった。実習サポートがしっかりとされていた。 ・事前に演習の具体的な内容を提示することができれば、さらにスムーズに受講できたのではないかと考える。 ・アセスメントのグループを5～6人の小グループでできればよいが、衛生士の人数を増やさないと不可能である。
次年度に向けての検討課題	・参加申し込みが多く、約半数を断っている状況。受講希望者が多いため、参加人数を増やすか、2回の開催にするか等の検討が必要。 人数を増やす場合、使用するベッド数、スペース、歯科衛生士の確保が必要。 ・ホームページ上にも具体的な演習内容について記載をした方が、スムーズにすすむのではないか。 ・外部の会場であるため、昼食の案内も事前にした方がよい。
担当者	柴田百合子、大塚弘子、◎山口真希

【 高齢者介護施設における看護とマネジメント 】 研修会 評価

開催日	平成27年8月21日（水曜日）
開催場所	日本看護協会 新潟県看護研修センター
研修目的 または目標	高齢者介護施設で働く看護職員が他職種と協働しながら効果的にケアを提供するために必要なマネジメント方法を学ぶ。
対象参加人数	申込み人12人、当日出席12人、修了者12人
研修内容	<p>インターネット配信研修107 [リアルタイム]</p> <p>○講義 介護施設の変化とそこで働く看護師に求められるもの 講師 斉藤訓子 公益社団法人日本看護協会 常任理事</p> <p>○講義 国の施策の動向 講師 西村 緑 厚生労働省老健局高齢者支援課 老人介護専門官</p> <p>○講義 多職種協働のための組織論 講師 酒井郁子 千葉大学大学院看護研究科看護システム管理学専攻ケア施設看護システム管理学領域 教授</p> <p>○講義 介護施設における看護職の役割 講師 同</p> <p>○講義 介護施設での看護実践の仕組みづくり① 講師 同</p> <p>○講義 介護施設での看護実践の仕組みづくり② 講師 松本佐知子 公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団松戸ニッセンの園健康管理室 課長 老人専門看護師</p> <p>○講義 介護施設での看護実践の仕組みづくり③ 講師 同</p> <p>○講義 介護施設での看護実践の仕組みづくり④ 講師 同</p>
結果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院に勤務する副看護師長職以上の看護管理者が55%、スタッフ45%が参加した。</li> <li>・学習課題は、達成できた・ほぼ達成できたを合わせて73%であったが研修全体を通しては、問題解決の糸口が得られたり充実感が得られるなど成果があった。その一方で学習内容が多く、許容量を超えていたものが27%あった。</li> </ul>
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護施設等からの参加が 81%と高く、学習の必要性を感じている参加者が多かった。</li> <li>・ 講師・講義内容については最新の知識や基本的な看護、支援の全般的な内容が盛り込まれており妥当な内容だった。一方で、内容が多過ぎて理解につながらない部分が多いという意見もあった。</li> <li>・ 内容が多い上に早口で聞き取りにくいという意見が聞かれた。</li> <li>・ 当日の運営では、今年度から参加費が1円単位の細かい負担になったため予め事務局で両替を行い、受付時での参加費支払いにかかる混乱はなかった。その他は特段問題なく実施できた。</li> </ul>
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 業務が多忙で研修に参加できない現状が見られる。研修施設まで出向くことも困難な状況が伺える。勤務施設又は自宅での受信環境が整えられることが、学習環境としては望ましいと感じた。</li> </ul>
担当者	◎新潟県看護協会

【医療安全研修～看護記録と法的責任 看護記録はどうあるべきか】研修会 評価

開催日	平成27年9月17日（木）・18日（金）
開催場所	看護研修センター
研修目的 または 目標	看護記録の法的意義を学び、日々の看護記録に活かすことができる。
対象参加人数	募集人数 100名人×2 参加人数 1日目:109人 2日目:100人
研修内容	講義と質疑応答 稲葉 一人 中京大学法科大学院 教授
結果・評価	アンケートにて評価する。研修の理解度は「理解できた」「ほぼ理解できた」が89.7%であった(昨年度92%)。医療事故調査制度に関する講義も多かった点が理解度が下がった要因と考える。研修の満足度は「満足できた」「ほぼ満足できた」が91.7%であった(昨年度95%)。また、学習課題の達成度は「達成できた」「ほぼ達成できた」が85%であった(昨年度87%)。80%以上を達成基準と定めており、研修のねらいは、ほぼ達成できたと判断する。
企画の評価	アンケートにて評価する。ねらいとの整合性は98.5% (昨年度99%)であった。80%以上を達成基準と定めており、医療安全研修としてこの企画は有効であったと判断する。
次年度に向けての検討課題	受講者数から記録の研修への需要は高いと考える。今年度は受講対象を学習レベルⅠ～Ⅳとしたが、医療事故調査制度の開始により記録の法的意義が益々重大となることから、看護管理者の参加もあった。参加者のレベル(新人～看護部長)にばらつきがあり、経験年数が浅い場合には難易度が高い講義内容である。次年度は2回の企画のうち、実践者(経験年数5年目程度とする)対象日と管理者(副看護師長・主任クラス以上)を対象とする日を分けることが望ましいと考える。
担当者	◎五十嵐実花子、松岡長子、樋口美智子、三膳景子、山崎加代子、桑原和子

【 地域包括ケアシステム推進の為の研修】研修会 評価

開催日	平成27年10月19日 (月曜日)
開催場所	朱鷺メッセ4階マリンホール
研修目的 または目標	看護職が地域包括ケアシステムを推進させる核としての自覚をもち、地域包括ケアシステムをより理解し、その役割を発揮することができる。
対象参加人数	募集人数250人 応募人数 人 参加人数206人
研修内容	10:00～12:00 講義「地域包括ケアにおける看護職の役割」 講師 聖路加国際大学教授 吉田 千文 13:00～15:00 「ここまで進んだ、新潟県の地域包括ケアシステム」 新潟県庁医務薬事課 課長補佐 伊里昌子 「地域包括ケア病棟入院料と病院看護としての具体的実践」 信楽園病院退院調整専任看護師長 松井昌子 「地域包括ケアシステムと在宅看護の実践」 地域包括支援センターあじかた 保健師 佐藤智亮 県看護協会立訪問看護ステーションにいがた主任 猪俣卓子
結果・評価	1. 運営について 開催当日に、ミーティングが行われ、慌ただしく始まったが、研修内容通り行われた。質問も多く、多くの学びを得ることが出来たようであった。 2. 受講生について 看護学生から、管理職まで幅広い受講生だった。 3. 研修内容について 予定通り行えた。 4. ・アンケート結果より、研修内容は93%が理解・ほぼ理解でき、満足度及び達成度の関しても89%が満足・ほぼ満足、ほぼ達成できたと評価されていることから、達成できたと評価する。
企画の評価	・研修評価の達成から、企画評価達成とする。
次年度に向けての検討課題	・次年度も参加人数が今年度位であれば同じ規模の会場で行ったほうがよい。 ・朱鷺メッセ用の司会運営マニュアルを作成したほうがよい。
担当者	◎丸山美香、浜田富士子、平井正博 信永美奈

【脳卒中患者のリハビリテーションと看護のポイント】研修会 評価

開催日	平成27年10月20日 (火曜日)
開催場所	新潟県看護研修センター
研修目的 または目標	・ 脳卒中患者のリハビリテーションの実際を学び、看護実践に活かす
対象参加人数	51人
研修内容	講義「脳卒中の基本的知識と看護」 講師 南雲みどり 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師(長岡赤十字病院) 講義「脳卒中リハビリテーション看護」 講師 神保佳枝 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師(長岡赤十字病院)
結果・評価	<p>1. 受講者数:80人募集のところ、53人の申込みであったが、2人欠席であった。</p> <p>2. 運営について:原因は不明だが、数枚配布資料の文字がズレていた。講師から配布資料がカラー印刷でない、脳の図など見にくいと指摘された。来年度検討する。</p> <p>3. 研修内容について: 午前:座学 午後:2時間座学 1時間演習 座学は自由席 演習は2グループに分かれ行われた。</p> <p>4. アンケート結果 回収率96.2 % アンケート結果で達成度は「達成できた」「ほぼ達成できた」 90.2% 学習課題の満足度は「満足できた」「ほぼ満足できた」 92.15% 自由記載のコメントは、印刷されている資料の図や表が見にくいという意見が3人ほどあったが、今後の実践につなげようとする意見が多かったことで、達成とする。</p>
企画評価	<p>目的:ねらいとの整合性は「整合性があった」92.16%「整合性がない部分があった」が5.88 % 研修評価達成から、企画達成とする。</p> <p>講師・内容:アンケート結果より、実証例などの話を加えた講義であり、とてもわかりやすかった、と高評価であった。</p> <p>プログラム・時期:レベル I からIVまで参加者は幅広い経験年数であったが、病態生理の時間が長くとられていた。看護実践の部分が1時間45分と短かった。講師からも人数が40人位なら演習がスムーズにでき、時間がとれるとの意見がでた。</p> <p>研修の事前準備・当日の運営など: 演習の打ち合わせも休憩時間にでき、物品の用意も問題なかった。</p>

<p>次年度に向けての検討課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の社会情勢からも「脳卒中患者のリハビリテーションと看護」というテーマは重要である。</li> <li>・現在の講師が3年目であり、若い人材育成のためにも講師の検討が必要である旨、理事より講師に伝えた。又研修内容についても来年度に向けて講師の意見を聞き検討することとした。</li> </ul>
<p>担当者</p>	<p>◎佐藤志津子      石川映子</p>

【認知症高齢者の理解と看護[基礎編]】研修会 評価

開催日	平成27年11月18日（水曜日）
開催場所	日本看護協会 新潟県看護研修センター
研修目的 または目標	増加し続ける認知症高齢者に対し適切に対応するため、認知症の正しい理解に基づいた看護を学ぶ。
対象参加人数	申込み106人、当日出席101人、修了者99人
研修内容	インターネット配信研修231 [リアルタイム] ○講義 ・ 認知症に対する基礎知識認知症高齢者の医療の現状と国の施策 講師：堀部賢太郎 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 ○講義 ・ 高齢者の理解に必要な知識 講師：藤田 冬子 神戸女子大学看護学部 ○講義 ・ 入院が認知症を持つ高齢者に与える影響とケアの視点等 講師：高梨 早苗 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
結果・評価	
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院、施設等県内各機関からの参加があり学習の必要性を感じている参加者が多かった。</li> <li>・ 講師・講義内容については最新の知識や基本的な看護、支援の全般的な内容が盛り込まれており妥当な内容だった。</li> <li>・ インターネット研修の配信の状況としては順調な映像で配信されていた。</li> <li>・ 当日の運営では、今年度から参加費が1円単位の細かい負担になったため予め事務局で両替を行い、受付時での参加費支払いにかかる混乱はなかった。その他は特段問題なく実施できた。</li> <li>・ 受付時間は9:00開始だったが数分前から受付を行い、名簿の確認も記名でなく確認のみとしたため開始前に受付を終えることができた。</li> </ul>
次年度に向けて の検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当日 1名人での運営だったが、受付対応、インターネットの不具合時の対応など次年度以降2名人での運営が望ましい。</li> </ul>
担当者	◎田中 靖子

【 看護職のストレスとメンタルヘルスー（Ⅰ）（Ⅱ） 】研修会 評価

開催日	平成28年3月 10日 （木曜日） 平成28年3月11日 （金曜日）
開催場所	新潟県看護研修センター 3階 大研修室
研修目的 または 目標	・看護職のストレスやメンタルヘルスの不調を理解し対処方法や対応の方法を学ぶ。 ・心の健康づくりにつながるセルフコントロールの方法を理解し自らが実践できるようになる。
対象参加人数	募集 第1回100人 応募人数 20人 参加人数 19人 第2回100人 応募人数 38人 参加人数 36人
研修内容	講師名 渡邊岸子 新潟大学大学院保健学研究科 柏 美智 新潟大学医学部保健学科 講義 ①看護職のストレスの理解とメンタルヘルスの考え方（講義） ②メンタルヘルス不調の理解とメンタルヘルスケアとしての対処方法や対応の方法（講義） ③セルフコントロールの考え方と多様な方法（講義） ④方法の1つとしての身体的ケアの考え方と方法（講義・演習） ⑤看護職のメンタルヘルスとレジリエンス（講義） ⑥ワークショップによる各自のストレス対処とレジリエンスの理解
結果・評価	研修方法はアンケートより評価した。 アンケート回収率は98.2%、54名人 研修の理解度は、「理解できた、ほぼ理解できた」が97.1%であった。 研修内容の満足度は、「満足できた、ほぼ満足できた」が93.3%であった。 研修の理解度、満足度共に80%以上の評価が得られたため、研修目標は達成されたと評価できる。
企画の評価	研修のねらいと整合性は、「整合性があった」が89.2%、「整合性がない部分があった」が10.8%で3人であった。学習課題の達成度は、「達成できた」「ほぼ達成できた」が93.3%で、「達成できなかった」「あまり達成できなかった」は6.7%で3人であった。 研修のねらいと整合性は90%近い評価が得られ企画の目的・目標は妥当であった。 アンケート自由記載からも、講義内容が分かりやすく興味深かったという意見や、グループワークで身体的ケアとしてのリラクゼーション法を体験し、リラックスでき楽しかった、自分自身を見つめなおすことが出来た、職場や家庭で活用したいなどの意見があった。
次年度に向けての検討課題	2回の研修に対し応募人数が 19人と 36人であった。グループワークを行う際、講師が各グループを見て回るには人数的に良かったが、研修内容の評価が高かっただけにより多くの人の参加があれば良かった。募集人数と研修開催時期の検討が必要である。
担当者	◎ 白倉美智子 鈴木春美

守



# 准 看 護 師 研 修

## 【 准看護師研修（看護倫理）～共に考えよう看護倫理～】研修会 評価

開催日	平成27年9月14日 (月曜日)
開催場所	新潟県看護協会 研修センター
研修目的 または目標	日々の看護実践で感じる倫理的ジレンマについて、現場で対応する方法を学び実践に活かすことができる
対象参加人数	准看護師 10年未満のもの 募集人数 80人 応募人数 32人 参加人数 30人
研修内容	午前:講義 倫理とは何か・医療倫理の歴史的経緯 なぜ医療倫理は必要なのか倫理的ジレンマと対処方法 倫理綱領の理解 講師 長谷川雅子 先生 (新潟脳外科病院 副院長) 午後:演習 事例検討 個人ワーク後事例を共有 4人8グループに分かれて、事例検討を行う。
結果・評価	評価方法・評価基準・目標達成度・受講者の満足度など 理解度は理解できた、ほぼ理解できたをあわせて93%となった。満足できた、ほぼ満足できたをあわせて 90%と満足度も高い。研修のねらいと研修内容の整合性があると回答したものが93%であり目標は達成された。 アンケート結果より自身の日常業務や思い、看護を文章にすることにより、行動、言動を振り返ることができ、勉強になった。講師の人柄ややさしさが良い研修会であったという意見があった。
企画の評価	・ 80人募集のところ応募が32人である。受講者は経験年数10年以上のものが14人いた。倫理綱領を初めて聞いたという方が半数いた。また、受講者は倫理的問題を現場で共有していない。 以上のことから、准看護師の倫理教育はほとんどされていない現状があり継続する必要がある。 ・准看護師対象という事で、准看護師の方も研修に参加しやすかったと思う。 ・グループワークを行う、また滋賀県看護協会作成のマンガを用いた倫理綱領のスライドによる講義から倫理綱領について理解を促すよう工夫されていた。 ・各グループの発表を講師が上手に今回の研修テーマに結びつけまとめていたので満足度があがったと思う。
次年度に向けての検討課題	・ 倫理綱領を持参しなかった方が 11 人いた。約半数の方が事前課題を持参せず参加した。受付で確認が必要である。 ・対象者を10年未満とせず広げる必要がある。 ・ホームページを確認し参加するようなアナウンスが必要である。
担当者	◎柴田百合子、大塚弘子

提出期限厳守 月 時

【 (准看護師研修) チーム医療と連携 】研修会 評価

開催日	平成27年10月 2 日(金)
開催場所	新潟県看護協会研修センター 3階大研修室
研修目標	看護実践に必要な知識・技術・態度を習得し、最善の看護が提供できる能力を養う
対象参加人数	募集人数 80名 人 応募人数91名 人 参加人数89名 人 午後から1名早退
研修内容	<p>講師:飯田 智恵 新潟県立看護大学</p> <p>講義:チーム医療が求められる背景 安全で質の高いチーム医療のためのコミュニケーション 演習 グループワーク ～チーム医療における看護の役割を語り合おう～</p> <p>①グループごとに、紙を切りわかを作り首かざりをつくる※それぞれが相談したり してはいけない無言で作業する</p> <p>②①と同じ作業を行うが条件が違い、相談してもよいが片手で行う</p> <p>③自己紹介、参加の動機などを話す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体セッション</li> <li>・講師よりの総評</li> </ul>
結果・評価	<p>1. 運営について 開始後に遅れてく る人がいたため会場にあがってからの個人に対する準備等に少し時間を要した 当日の進行ではトラブルはなかった 空調・照明は問題なし</p> <p>2. アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席者からのアンケート79枚中、所属は、病院が78名 人、介護施設が1名 人であった。『満足』『ほぼ満足』が90%、学習課題の達成度は86%であった。</li> <li>・アンケート用紙の職種の項目に『看護師』はあるが『准看護師』がなく、『准看護師』と記入してあった。</li> </ul>
次年度に向けての検討課題	来年度も同じ内容、講師でお願いしたい
担当者	信永美奈 ◎平井正博

## 専門分野の研修 I

専門分野の研修【 BSL(一次心肺蘇生コース) 】研修会 評価

開催日	平成 27年 5月 17日(日)
開催場所	新潟県看護協会研修センター 2階研修室
研修目標	外傷 や疾病により、急な心肺停止に陥った患者に遭遇した時に、BLS を迅速、かつ確実に 実施できる看護職を育成する。
対象参加人数	募集人数 26人 応募人数 27人 参加人数 27人
研修内容	講師 AHA公認講師 代表 目黒信子 長岡赤十字病院 看護師長 他 インストラクター13人 タスク6人 ガイドライン2010に準拠した内容
結果・評価	1. 運営について AHA認定講師看護師が担当し、計画に沿って行われた。 講師およびファシリテーターは9人であった。 空調・照明は問題なし。 2. 受講生について 受講生は4～5人のグループとなり講義、演習、実技を行った。受講動機も自らの資質向上であり積極的に参加していた。 3. アンケート結果 病院職場から94%、ほか訪問看護ST教育機関からの参加があった。参加者の就業経験は15年未満までのものが70%、15年以上が30%であった。 参加者の96%が満足できた、理解できたと回答し学習課題もほぼ全員が達成していた。
企画の評価	・ 専門的なトレーニングを受けた講師らによる講義・演習・実技は分かり易く十分な指導が実践され、受講者のニーズを満たすものとなっていた。 ・他職が加わらない看護職のみによる研修は、参加者をリラックスさせ、集中できる環境であると感じた。 ・平成24年度より開催し、今年度までに178名が受講した。
次年度に向けての検討課題	救急救命に関する技術は看護職にとってスキルアップが必要な業務の一つである。今後も看護職が学べる環境は必要である。
担当者	◎新潟県看護協会

## 【 明日からできるがん看護 】研修会 評価

開催日	平成27年9月28日（月）～30日（水）
開催場所	長岡商工会議所
研修目的 または目標	1.がん看護の診断期、治療期、終末期の看護がわかる 2.がん看護のためのアセスメント、問題点の明確化、問題立案、看護介入、評価のプロセスがわかる
対象参加人数	46人
研修内容	<p>9月28日（月）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「がん看護・診断期の看護」 講師 三浦一二美 がん看護専門看護師(厚生連中央総合病院)</li> <li>・講義「がん症状マネージメント・せん妄の症状マネージメント」 講師 此村奈都美 がん性疼痛看護認定看護師</li> </ul> <p>9月29日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「がん外科療法看護」 講師 穴沢角弥 手術看護認定看護師 (新潟県立がんセンター新潟病院)</li> <li>・講義「がん化学療法看護」 講師 白井直美 がん看護専門看護師 がん化学療法看護認定看護師 (長岡赤十字病院)</li> <li>・講義「がん放射線療法看護」 講師 後藤加奈子 がん放射線療法看護認定看護師 (新潟県立がんセンター新潟病院)</li> </ul> <p>9月30日（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義「がん終末期看護」 講師 多賀裕美(長岡西病院緩和ケア認定看護師)</li> <li>・グループワーク「事例症例1～5」 メインファシリテーター : 多賀裕美 ファシリテーター : 此村奈都美、白井直美、三浦一二美、 長谷川亜希</li> </ul>
結果・評価	<p>1. 受講者数:50人募集のところ、参加申し込み48人があったが、46人の参加であった。2日目、1人15分遅れて参加した。</p> <p>2. 運営について:</p> <p>&lt;1日目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会場が広く、両サイドの席のプロジェクターが見えづらい位置にあり、机を中央に向け対応した</li> <li>・午後の講義でグループワークをすることになったが、休憩時間に参加者に声掛けしスムーズに開始できた</li> </ul> <p>&lt;2日目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休憩が45分であり、また3階のトイレが2つ設置されていたが、1つが故障中で、他の階に行ったりしていたため、時間的に焦りを感じる雰囲気であった。また、実際、午後の講義を開始後、2人遅れてきた。本日は講義のみで、問題なく進行できた。</li> </ul> <p>&lt;3日目&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にグループワーク分けを講師にお願いし、一覧を用意してもらったが、講師の当日の打ち合わせで、8グループに分かれ行うことになった 会場が広く、トラブルなく対応できた。</li> </ul>

	<p>・研修センター以外の会場の関係で、当日の印刷は控えていただくよう、講師に依頼していた。2日目の講義では追加資料があったが、講師が人数分持参してくださった。3日目のグループワークの記入用紙に不足があり、会場での対応となったが、コピー機(1F)の故障や領収書の発行(4F)などで時間がかかった。</p> <p>3. 研修内容について:</p> <p>&lt;1日目&gt;  午前:座学の席は自由。後半の講義で、隣の人と膝を突き合わせ、無言で5分間向き合い感じたことを発表し、コミュニケーションの基本に必要なことを学習した。講義開始すぐに、隣の人と1分間の自己紹介を行い導入になった。  午後:座学の席は自由  ・3～4人のグループで事例検討し、発表を行った  ・講義内容が多く、時間的制限があり一部講義できない内容があった  ・口腔内崩壊鎮静剤のパッチを実際に体験し、看護指導に実践できる内容であった。</p> <p>&lt;2日目&gt;  午前:座学の席は自由。講義のみであった。  内容が盛りだくさんであったため、後半の術後合併症については、重要な項目の説明のみであった。  午後:座学の席は自由。講義のみであった。  「がん化学療法看護」は5分程超過して終了したため、質問の時間がとれなかった。</p> <p>&lt;3日目&gt;  午前:座学の席は自由  午後:5～6人の8グループで事例検討し、発表を行った。ファシリテーターが介入し、グループ毎に元気な声が聞こえ、活発な意見交換がされていた。</p> <p>4. アンケート結果 回収率100%  達成度 「達成できた」「ほぼ達成できた」1日目 97.8%  2日目 82.6%  3日目 95.7%  学習課題の満足度は「満足できた」「ほぼ満足できた」 97.8%</p>
企画評価	<p>目的：ねらいとの整合性は「整合性があった」「整合性がない部分があった」が97.8% 研修評価達成から、企画達成とする。</p> <p>講師・内容:講師・内容ともに好評価で、すぐに活かせる内容で良かった、という意見が多かった。しかし、講義内容が盛りだくさんだったため時間内に全ての内容を講義できず、残念というアンケート結果があった。</p> <p>プログラム・時期:がん看護の基本的なものが学べ、充実していた、という意見があった。時期に関する意見は特になかった。</p> <p>研修の事前準備:当日のグループ分け・追加の資料印刷を講師に依頼し、事前に準備したが、当日の打ち合わせでコピーの依頼をされた。</p>
次年度に向けての検討課題	<p>・外部会場での研修は、講師へ依頼する際、当日グループ分けや追加資料の印刷はできないことを徹底していくことは運営において大切である。</p>
担当者	<p>長島弘江      ◎石川映子      佐藤志津子</p>

【 糖尿病重症化予防（フットケア） 】研修会 評価

開催日	平成 27年 10月 23日(金)～ 24日(土)
開催場所	新潟県看護協会研修センター 2 階中研修室
研修目標	フットケアの意味を正しく理解し、糖尿病足病変に関するフットケアの技術を学び、糖尿病患者に具体的なケアができる
対象参加人数	募集人数 30人 応募人数 16人 参加人数 16人
研修内容	<p>講師名 八幡和明 厚生連長岡中央総合病院 糖尿病センター          講義タイトル(講義)「糖尿病患者の足病変 ～病態生理から治療まで」</p> <p>講師名 上原喜美子 新潟県立中央病院 慢性疾患看護専門看護師          講義タイトル(講義)「糖尿病の療養を支えるフットケア」          「フットケアの実際～予防のためのセルフケア支援」</p> <p>講師名 野中共子 新潟大学医歯学総合病院 慢性疾患看護専門看護師          講義タイトル(講義)「糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント①」          「糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント②」          「糖尿病重症化予防におけるフットケアの評価と今後の課題」          (演習6)まとめ 今後の糖尿病重症化予防(フットケア)の活動に向けて～自施設における、今後のフットケア活動計画～</p> <p>講師名 丸山順子 厚生連長岡中央総合病院 糖尿病認定看護師          (演習1)「糖尿病患者のフットケアのためのアセスメント」          (演習2) 事例分析と評価①(グループディスカッション・まとめ)</p> <p>講師名 藤田淳子 新潟市民病院          西山陽子 済生会新潟第二病院          (演習3、4)フットケアの実際          (演習5) 事例分析と評価②(ケア計画立案)</p> <p>その他 ファシリテーター          井口佑子(信楽園病院)反町貴子(長岡赤十字病院)本宮みどり(燕労災病院)</p>
結果・評価	<p>1. 運営について          *日本糖尿病教育・看護学会との共催であり、担当委員は会場運営が主で、研修の進行や講師紹介、演習・グループワークのファシリテーターなどは専門・認定看護師が担当し、計画に沿って行われた。          *講師およびファシリテーターは合計9人で、待機室にお茶などの準備をした          *空調・照明は問題なし</p> <p>2. 受講生について          受講生はGW、演習、実技に積極的に参加していた</p> <p>3. アンケート結果          外来での開設は 81.25%だが、実際にフットケアを実施している参加者は75%であった。</p> <p>4. その他          演習中各グループには1人名のファシリテーターが担当しているが、他の残った方はグループワークには参加せず？集まって何か(ミーティング?)をしていた。</p>
企画の評価	<p>目的・目標、講師・内容については、専門・認定看護師で立案したプログラムに沿って実践された。          診療報酬加算対象研修で、2日間、16時間の長時間の研修。          必要時教育委員が依頼を受け、事務的な件に対応する程度であった。          *必要物品の連絡不足があったが、前日に指摘され準備することができた</p>

	(事前連絡の際の中に記載はなかった)※霧吹き擦式アルコールはジェルタイプが良いとのことでした
次年度に向けての検討課題	一昨年よりの3回目の研修で、新潟県看護協会の研修枠のひとつとして重要ではあるが、教育委員会が企画、運営まで関与しなくても専門・認定看護師が主導的に実施してもよいのではないかと考えられる。※グループの数によってファシリテーターの人数の調整が必要かと思われる。 また、2日間で準備から含めると8:00～18:30まで担当者も関わり、長時間であり、3日間に分けることが可能なのか？
担当者	◎信永 美奈      浜田富士子

【 糖尿病重症化予防（フットケア）研修会修了者のフォローアップ 】  
研修会 評価

開催日	平成28年3月5日（土曜日）
開催場所	新潟県看護協会研修センター 2階中研修室
研修目標	フットケアを実践するための仕組み作りができる
対象参加人数	募集人数 30人 応募人数8人 参加人数7人（キャンセル1人）
研修内容	<p>9:30～9:50 受付            9:50～10:00 オリエンテーション            10:00～10:30 講義「フットケアを実践するための仕組み作りのポイント」            講師 上原 喜美子 慢性疾患看護専門看護師（新潟県立中央病院）            10:30～11:00 実践報告「フットケア外来の現状」            講師 藤田 淳子 糖尿病看護認定看護師（新潟市民病院）            11:00～12:00 グループワーク①            テーマ「自施設でのフットケア外来の現状」            12:00～13:00 昼食            13:00～16:00 グループワーク②            テーマ「現状の問題点についての解決策を考える」            ※ファシリテーター4人（慢性疾患看護専門看護師、糖尿病看護認定看護師）            上原 喜美子 （新潟県立中央病院）            西山 陽子 （済生会新潟第二病院）            大瀧 陽子 （新潟県立新発田病院）            藤田 淳子 （新潟市民病院）</p>
結果・評価	<p>1. 運営について            ・担当委員は会場の運営が主であり、司会進行及びGWのファシリテーターは専門・認定看護師が担当し計画に沿って行われた            ・空調、照明、機器について問題はなかった            2. 受講生について            学ぶ姿勢が感じられ非常に良かった。2グループに分かれ、ファシリテーターも各グループに1人ついた為か、積極的にGWに参加していた。人数が少ないことで各グループの団結力を感じられた。            講師の西山さんが上手に進行していたことで、時間通り研修が進んだ。            3. アンケートの結果            参加者の勤務場所は外来や病棟及び血液透析室だった。看護外来を開設し、フットケアを実施している参加者は85%であった。おおむね糖尿病合併管理料の算定は行われている。</p>
企画の評価	専門及び認定看護師で立案されたプログラムに沿って実践された。司会、進行に関しても専門・認定看護師が担当しスムーズに行われた。
次年度に向けての検討課題	受講条件のハードルが高いため募集人数に対し参加者は7人であったため、今後は、募集人数の設定を考慮ことや、参加人数に対して講師人数の設定を考慮する必要がある
担当者	慢性疾患看護専門看護師、糖尿病認定看護師4人 ◎浜田富士子・平井正博

## 専門分野の研修 Ⅱ

【助産師実践習熟度段階（クリニカルラダー）ステップアップ研修】 研修会 評価

開催日	7月6日（月）
開催場所	新潟県看護研修センター 大会議室
研修目的 または 目標	助産師のキャリア開発の必要性と助産師のキャリアパス・クリニカルラダーを運用・活用するために必要な基礎的知識およびレベルⅢ認証申請までの具体的な準備・手続きなどを理解する。
対象参加人数	12人（助産師11人、看護師1人）
研修内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリニカルラダー活用についての知識</li> <li>・ラダーレベルⅢ申請のための準備と手続</li> </ul>
結果・評価	<p>1. 運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者が12人と定員を大きく下回ったため会場が大きすぎた。後ろからは文字が見えづらい。</li> <li>・来年度も受講人数は少ないことが予想されるので、会場はもう少し狭い方が望ましい。</li> <li>・内容が多く時間も長かったので休憩時間をいれたほうがよかった。</li> </ul> <p>2. アンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の職位は看護師長1人、副看護師長(主任)6人、スタッフ5人。。経験年数では20年以上がほとんどだった。</li> <li>・学習課題の達成では「ほぼ達成」が81%であった。</li> <li>・今後もオンデマンド研修を受講したいかでは「希望する」が半数にとどまった。</li> <li>・今回の研修では解決の糸口や、充実感が得られたとの回答があった。</li> <li>・画像音声については特に問題はなかった。</li> </ul>
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア開発（クリニカルラダー）に関する研修の参加者は少なかったが、申請の意義や目的等は浸透されていることがうかがえた。</li> </ul>
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認証申請に関する手続き等は、理解が進んでいるので次年度からは中止とする方向で検討する。</li> </ul>
担当者	◎稲波 千加子                      嶋倉 文子                      樋山 幸子

【 助産実践能力習熟段階（臨床ラダー）レベルⅢ認証申請の為の必須研修①  
医療実践と助産記録 ②子宮収縮薬使用時の助産ケアのポイント】研修会 評価

開催日	平成27年7月15日（水曜日）
開催場所	新潟県看護研修センター
研修目的 または 目標	①記録の基礎と助産記録を理解する ②子宮収縮薬使用時の助産ケアのポイントについて理解する
対象参加人数	11人（80人募集）
研修内容	インターネット配信研修【オンデマンド】 助産実践能力習熟段階（臨床ラダー）レベルⅢ認証申請の為必須 研修 ①「医療実践と助産記録」 講義 助産記録の具体的な考え方 安全な医療提供のための記録のあり方 助産記録の具体例 ②「子宮収縮薬使用時の助産ケアのポイント」 講義 子宮収縮薬を用いた陣痛誘発と陣痛促進の注意点 子宮収縮薬使用法と助産ケアのポイント 子宮収縮薬使用時のインシデント・アクシデント
結果・評価	1. 受講者数:80人募集のところ、11人の参加であった。 ・今年度からの必須研修となったが、集合研修の参加は勤務上厳しいのかもしれない。集合研修と自院研修のどちらのニーズが求められるのか？あり方について、次年度の検討事項とする 2. 運営について ・参加受講者の受付が早めに終了したため、開始時間を5分早め開始した。 ・研修が、2項目あった。2項目はプログラムのオリエンテーション・日本看護協会からのメッセージをはぶき15分短縮することができた。 ・同じ研修内容で2回実施した方が参加率が上がるのではないか。 ・受講者が11人と少なかったため、運営はスムーズにできた 3. アンケート結果 研修①・必須研修のCTG研修も来年行ってほしいと、受講者から要望があった。
企画の評価	プログラム・時期:新採用者が入職する4月・5月を除いての開催が妥当である。 研修の事前準備・当日の運営など:参加人数が少なかったため、特に問題なかった。
次年度に向けての検討課題	・募集人数の検討：30人程度の募集にし、多くても受け入れてはどうか。
担当者	石川映子 ◎佐藤志津子

【 助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）レベルⅢ認証申請の為の必須研修  
 ③産科領域で役立つ！脳神経系のフィジカルアセスメント ④産科領域で役立つ！呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメント ⑤産科領域で役立つ！代謝系のフィジカルアセスメント】研修会 評価

開催日	平成27年7月27日（月曜日）
開催場所	新潟県看護研修センター
研修目的 または 目標	③妊娠期・分娩期・産褥期における脳神経系に関するフィジカルアセスメントについて学ぶ。 ④妊娠期・分娩期・産褥期における呼吸器・循環器系に関するフィジカルアセスメントについて学ぶ。 ⑤妊娠期・分娩期・産褥期における代謝系に関するフィジカルアセスメントについて学ぶ。
対象参加人数	11人
研修内容	インターネット配信研修【オンデマンド】 助産実践能力習熟段階(クリニカルラダー) レベルⅢ認証申請の為必須研修 ③「産科領域で役立つ！脳神経系のフィジカルアセスメント」 講義 妊娠に伴う脳神経系に関する母体の生理的变化 妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常 異常の早期発見のポイントと対応 ④「産科領域で役立つ！呼吸器・循環器系のフィジカルアセスメント」 講義 妊娠に伴う呼吸器・循環器系における母体の生理的变化 妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常 異常の早期発見のポイントと対応 ⑤「産科領域で役立つ！代謝系のフィジカルアセスメント」 講義 妊娠に伴う代謝に関する母体の生理的变化 妊娠・分娩・産褥期に起こりやすい異常 異常の早期発見のポイントと対応
結果・評価	1. 受講者数:80人募集のところ、11人の参加であった。 ・今年度からの必須研修となったが、集合研修の参加は勤務上が厳しいのかもしれない。集合研修と自院研修のどちらのニーズが求められるのか？あり方について、次年度の検討事項とする 2. 運営について ・参加受講者の受付が早めに終了したため、開始時間を15分早め開始した。 ・研修が、3項目あった。4・5項目はプログラムのオリエンテーション・日本看護協会からのメッセージをはぶき15分短縮することができた。 ・受講者が11人と少なかったので、運営はスムーズにできた 3. アンケート結果 研修③:必須研修のCTG・NCPR(Bコース)研修も来年行ってほしいと、受講者から要望があった。 研修④:CTG・NCPRの研修も行ってほしい、と要望があった。 テスト後のまとめは、③脳神経系のように質問ごとにしてもらえると

	<p>わかりやすい、と要望があった。</p> <p>研修⑤:資料のグラフがモノクロで見にくい。</p>
企画の評価	<p>プログラム・時期:新採用者が入職する4月・5月を除いての開催が妥当である。</p> <p>研修の事前準備・当日の運営など:参加人数が少なかったため、特に問題なかった。</p>
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集人数の検討:30人程度の募集にし、多くても受け入れてはどうか。</li> <li>・時期の検討:1回目と2回目が同月のため、勤務調整が厳しいと思われるので、別月にしてはどうか。</li> </ul>
担当者	◎佐藤志津子 長島弘江

教育・研究研修

開催日	平成27年9月7日 (月)
開催場所	看護研修センター
研修目的 または 目標	1 プリセプターの役割を理解できる。 2 新人指導において困ったときの解決策を見出すことができる。
対象参加人数	募集人数100人 応募人数110人 参加人数105人 (5人欠席)
研修内容	講師名 佐久間亜紀先生 慶応義塾大学教職課程センター 講義 「プリセプターとは」 「学習とは」 演習 「事例を通してプリセプターとしての課題を明確にしよう」 20Gに分かれ、個人作業・グループワークを行い、発表を通して課題を共有し、意見のシェアを行った。
結果・評価	1. 運営について ・運営についての特別な問題なし。 ・プロジェクターは使用せず正面にホワイトボードを5台設置した。 ・事前にグループ別の形態になっていたため運営しやすかった。 2. 受講生について ・1回目は当日欠席が5人あった。 ・1回目すでにプリセプターを行っている人は半数近くいた。 3. 研修内容について ・参加型研修。事例を通して問題提起や解決方法を見出していった。 ・グループワークは活発な意見交換が出来ていたが、講師の質問に対しては消極的だった。 4. アンケート結果 ・研修内容について「理解できた」「ほぼ理解できた」で8割以上だったので達成とする。 ・研修の満足度では、「満足できた」「ほぼ満足できた」で8割以上だったので達成とする。 ・具体例とその解決方法の説明があり、今後同様の場面に出会った時に活用できるという意見が多かった。
企画の評価	企画の評価は、ねらいとの整合性で8割以上だったので整合性があったとする。
次年度に向けての検討課題	・対象は次年度プリセプターを担うとあるが、半数近く現在プリセプターを行っていたため、研修の時期か対象の検討が必要かと思われる。 ・次年度も同じ講師にお願いしたいと考える。
担当者	◎嶋倉文子 稲波千加子 樋山幸子

【 プリセプター研修 1回目 】

研修会 評価

開催日	平成28年3月1日 (火)
開催場所	看護研修センター
研修目的 または目標	1 プリセプターの役割を理解できる。 2 新人指導において困ったときの解決策を見出すことができる。
対象参加人数	募集人数100人、申し込み受付人数 113人、参加人数108人、(連絡あり 欠席2人、無3人)
研修内容	講師名: 佐久間 亜紀先生 慶応義塾大学教職課程センター 1. プリセプターとしての課題を明確にする。(講義とGW) 2. 事例検討(GWと解説) ・教育(指導)をコミュニケーションとしてとらえる ・新しい「評価」観と評価法 ・教師、看護師の「専門性」を育てるためにどうするか
結果・評価	1. 運営について ・ホワイトボード4台と黒板1台を正面に設置(講師の板書用) ・ホワイトボード1台を入りに設置(座席表掲示) 2. 受講生について ・当日欠席が5人いたが、参加人数は定員を上回った。 ・GWは活発な意見交換が出来ていた。 3. 研修内容について ・次年度プリセプター予定者が参加している為、時期的に受講者の学びの 意欲は高い様子で、それに応える内容、不安を軽減する内容となっていた。 4. アンケート結果について ・研修内容について「理解できた」「ほぼ理解できた」で8割以上だったので 達成とする。 ・研修の満足度は「満足できた」「ほぼ満足できた」で8割以上だったので 達成とする。
企画の評価	企画の評価は、「ねらいとの整合性があった」が8割以上となった
次年度に向け での検討課題	・次年度、プリセプター研修1回目(9月)は「現在プリセプターの役に ある者」を受講対象者とする事となった。4月からの5ヶ月間で困って いる事、悩んでいる事を事前課題としてまとめてきてもらう。 ・担当新人に関する事 ・同僚や先輩に関する事 ・職場のシステムや体制に関する事 協会ホームページで告知予定
担当者	◎稲波千加子 樋山幸子

【 看護研究Ⅰ・Ⅱ 看護研究ってどうするの 】研修会 評価

開催日	平成27年 9月2日（水曜日）～3日（木曜日）
開催場所	新潟県看護研修センター 3階 大研修室
研修目的 または目標	論理的思考・研究計画書・抄録・論文の書き方を学ぶ。
対象参加人数	定員100人 受講76人
研修内容	講師名 : 富田真佐子 臨床看護研究サポートセンター Soins代表 講義: データ収集と分析、論文の書き方、発表の仕方
結果・評価	評価方法はアンケートにより評価した。 研修の理解度は「理解できた、ほぼ理解できた」が65.7%であった。 研修内容の満足度は「満足できた・ほぼ満足できた」が79.4%であった。
企画の評価	ねらいとの整合性は、「整合性があった」が82.2%、学習課題の達成度は、「達成できた」「ほぼ達成できた」が63.0%であった。学習課題が「達成できなかった」「あまり達成できなかった」は31.5%で23人であった。 研修内容の評価については、基準の80%には達していない。受講者の研究経験や統計に関する知識、パソコンの習熟度の差により、達成度や理解度に差が生じた。アンケート自由記載からも、「今まで受講した研修の中で一番わかりやすかった」という意見と、「難しすぎてわからなかった」と意見があり、評価が分かれた。 平成27年度は2日間連続の研修会として、パソコンの演習を別研修として開催した。しかし、参加者の基礎的知識の差が大きいことが、目標を達成できなかった要因と考える。
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パソコンを使った演習の研修会を一連の研修として企画した方がより理解が深まる。</li> <li>・ 配布された資料にないものについて、パワーポイントの資料が細かく見にくかったので資料をすべて配布した方がよい。</li> </ul>
担当者	田中靖子◎ 白倉美智子 鈴木春美

【 看護研究Ⅲ 看護研究ってどうするの～分析手法を学ぶ～ 】 研修会 評価

開催日	平成27年 9月4日 (金曜日)
開催場所	新潟県看護研修センター 3階 大研修室
研修目的 または目標	分析手法を学ぶ。
対象参加人数	定員30人 受講30人
研修内容	講師名 : 富田真佐子 臨床看護研究サポートセンター Soins代表 講義: データ収集と分析、論文の書き方、発表の仕方
結果・評価	評価方法はアンケートにより評価した。 研修の理解度は「理解できた、ほぼ理解できた」が56.6%であった。 研修内容の満足度は「満足できた・ほぼ満足できた」が56.6%であった。
企画の評価	ねらいとの整合性は、「整合性があった」が 70.0%、学習課題の達成度は、「達成できた」「ほぼ達成できた」が50.0%であった。学習課題が「達成できなかった」「あまり達成できなかった」は39.9%であった。 研修内容の評価については、基準の 80%には達していない。90%の受講者が研究経験ありとしていたが、学習課題の達成が低かった。 理由として実技の実習が速すぎ、PC操作に慣れない受講者の理解が追いつかないことが考えられる。また、受講者のエクセル操作の習熟に差があったことも要因としてある。 Ⅰ、Ⅱを参加せずⅢのみ受講したものが25名人おり、基本の講義を求める声があった。
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを一連の研修として企画した方が受講者の理解が深まる。</li> <li>・ Ⅲの実技についてPCは1台ずつか、もしくは1施設で複数参加の場合は1施設1台で対応する。</li> <li>・ 募集の案内にPC操作、エクセルの操作の具体的な説明を入れ、参加者の習熟度の差が出ないようにする。</li> <li>・ 研修当日は操作の補佐をする人を複数配置した方がよい。</li> </ul>
担当者	田中靖子◎ 白倉美智子 鈴木春美

※提出期限厳守

【 新人看護職員臨床研修における教育担当者研修 】 研修会 評価

開催日	①平成27年10月16日、10月27日、12月1日 ②平成28年1月27日、2月9日
開催場所	看護研修センター
研修目的 または目標	教育担当者として部署の教育体制整備と研修企画、運営、評価にかかる研修を実施し、新人看護職員研修の充実を図る。
対象参加人数	①部署の教育担当者（准看護師を除く）で3日間を通して参加できるもの 募集人数 60人 応募人数 51人 参加人数 51人 ②次年度、新人看護職員研修の部署の教育担当者を担う予定の看護職で2日間を通して参加できるもの 募集人数 60人 応募人数 31人 参加人数 31人
研修内容	午前：講義 講師 新潟青陵大学看護学科 准教授 中根 薫 午後：演習 ①9グループ(3回同グループ) ②6グループ(2回同グループ) 自施設の新人看護職員研修体制と教育担当者の役割を担う上での課題 自部署の新人看護職員教育計画と課題 実地指導者が抱える問題・困難とその解決・支援方法
結果・評価	評価方法・評価基準・目標達成度・受講者の満足度など 1. アンケート結果より、1日目の研修体制と教育担当者の役割の理解については「できた」「まあできた」が89%で8割を超えていたが、2日目の研修計画の立案と評価の理解については、「できた」「まあできた」が75%であり8割を超えなかった。満足度は、「満足できた」「ほぼ満足できた」が93%だった。課題の提出率は92%であり、37人が計画の一部を追加修正、評価方法を変えた、6人が部署の計画がなかったため新たに作成した。変更なしは1人だった。追加研修のアンケート結果も同様の傾向だった。 2. 受講者の反応 グループワークは、同じ悩みを共有でき、他施設の取組みを聞ける場として有意義であるという意見や、目標の立て方を学習することができ、研修で得た知識を活用し、実践していきたいという意見があった。 時間どおりに終わってほしいという意見があった。
企画の評価	・企画の評価は「整合性がある」が94%となり達成された。 ・講義においては各回が資料に沿ってわかりやすく説明がされており、講師が大学准教授であるため、事例や現在の教育の内容を踏まえ聞くことができたため内容は充実していたと考える。グループワークでは事前にグループ分けに配慮をしたため、グループ討議は活発におこなっており、他者の意見を聞き各施設の教育計画が共有され現在の課題について検討されていたなど有効であったと考える。 ・昨年度よりも早い時期の開催であり、当年度の教育担当者の参加が多かったため、次年度教育担当者向けに1~2月に追加で研修を実施することとなり、31人が参加した。 ・新人看護職員研修において、各部署の教育担当者の役割は大きく、役割を理解することや、研修体制を考えるために、次年度も継続実施すべきである。 ・各回のアンケートについてだぶっている項目があり改善したほうがよい。
次年度に向けての検討課題	・理解度が8割を超えなかった研修計画の立案と評価については、講師と相談し、工夫が必要と思われる。 7~8月に当年度新人教育担当者を対象に1コース（全3回）、 2~3月に次年度新人教育担当者を対象に1コース(全3回)実施する。
担当者	柴田百合子、◎大塚、山口

※提出期限厳守 月 時

平成27年度新人看護職員教育担当者研修事業報告書(第1回目)

1 受講者の状況

(1)受講者の所属施設実数

		参加者所属施設数(実)
病院	200床以	23
	200床未	13
診療所		0
その他		0
計		36

(2)受講者の人数

		受講者人数	
		受講者延人数	(再掲)うち3日間全て受講した者
病院	200床以	105	35
	200床未	47	15
診療所		0	0
その他		0	0
計		152	50

(3)受講者の役割等

		新人看護職員研修事業実施の有無		参加者の病院内での役割			
		有	無	研修責任者	教育担当者	実施指導者	その他
病院	200床以	32	3	0	33	1	1
	200床未	14	2	0	15	1	0
診療所		0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0
計		46	5	0	48	2	1

2 受講者へのアンケート結果

(1)研修全体を通しての満足度

		満足	やや満足	やや不満足	不満足	未回答	計
病院	200床以	17	17	1	0	0	35
	200床未	8	6	1	0	1	16
診療所		0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0
計		25	23	2	0	1	51

(2)新人看護職員研修体制と教育担当者の役割の理解

		できた	まあできた	やや難しかった	難しかった	計
病院	200床以	12	21	1	1	35
	200床未	7	6	2	1	16
診療所		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
計		19	27	3	2	51

(3)研修計画の立案と評価の理解

		できた	まあできた	やや難しかった	難しかった	計
病院	200床以	5	24	4	2	35
	200床未	4	7	4	1	16
診療所		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
計		9	31	8	3	51

(4)研修終了後の状況・所属施設での研修体制充実について受講者の考え

		充実したい	現状のまま	充実は困難	その他	計
病院	200床以	29	4	2	0	35
	200床未	15	0	0	1	16
診療所		0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0
計		44	4	2	1	51

平成27年度新人看護職員教育担当者研修事業報告書(第2回目)

1 受講者の状況

(1)受講者の所属施設実数

		参加者所属施設数 (実)
病院	200床以	12
	200床未	4
診療所		1
その他		2
計		19

(2)受講者の人数

		受講者人数	
		受講者延人数	(再掲)うち3日間全て受講した
病院	200床以	46	23
	200床未	10	5
診療所		2	1
その他		4	2
計		62	31

(3)受講者の役割等

		新人看護職員研修 事業実施の有無		参加者の病院内での役割			
		有	無	研修責任 者	教育担当 者	実施指導 者	その他
病院	200床以	23	0	0	20	0	3
	200床未	3	2	0	5	0	0
診療所		0	1	0	0	0	1
その他		1	1	0	0	0	2
計		27	4	0	25	0	6

2 受講者へのアンケート結果

(1)研修全体を通じた満足度

		満足	やや満足	やや不満足	不満足	計
病院	200床以	10	13	0	0	23
	200床未	2	3	0	0	5
診療所		0	1	0	0	1
その他		1	1	0	0	2
計		13	18	0	0	31

(2)新人看護職員研修体制と教育担当者の役割の理解

		できた	まあできた	やや難し かった	難しかった	計
病院	200床以	9	12	2	0	23
	200床未	2	2	1	0	5
診療所		1	0	0	0	1
その他		1	1	0	0	2
計		13	15	3	0	31

(3)研修計画の立案と評価の理解

		できた	まあできた	やや難し かった	難しかった	未記入	計
病院	200床以	2	12	6	2	1	23
	200床未	2	1	2	0	0	5
診療所		0	1	0	0	0	1
その他		0	1	1	0	0	2
計		4	15	9	2	1	31

(4)研修終了後の状況・所属施設での研修体制充実について受講者の考え

		充実した い	現状のま ま	充実は困 難	その他	未記入	計
病院	200床以	18	3	0	2	0	23
	200床未	4	0	0	0	1	5
診療所		1	0	0	0	0	1
その他		2	0	0	0	0	2
計		25	3	0	2	1	31

【 臨地実習指導者フォローアップ研修】 評価

開催日	平成28年3月2日 (水曜日)
開催場所	看護研修センター
研修目的 または目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会情勢・教育の変化並びに看護の動向を再認識し臨地実習の在り方を再考する。</li> <li>・役割りの発揮に向けて自己の課題を明確にする。</li> </ul>
対象参加人数	対象：平成25年迄の研修修了者で現在臨地実習指導者の役割にある 80人) 募集人数 80人 応募人数 16人 参加人数 15人
研修内容	<p>午前:講義 実習指導の原理・学生の経験とその意味 講師 西村ユミ 首都大学東京健康福祉学部・人間健康学科研究科教授</p> <p>午後:演習 3グループでグループワーク後発表</p> <p>①自己紹介 生まれ変わったら何になりたいか ②「学生を理解しようとすることにおいて、印象に残っている学生との関わり、学生と患者と自らの関わり」について報告 ③「実習指導で大事にしたいこと・指導者としての役割」を3つの表現で表す</p>
結果・評価	<p>評価方法・評価基準・目標達成度・受講者の満足度など</p> <p>1. アンケート結果より理解度は、「理解できた」「ほぼ理解できた」94%であり、8割以上にて達成できた。満足度も「満足できた」「ほぼ満足できた」が94%だった。整合性は86.7%となった。</p> <p>2. 受講者の反応 フォローアップ研修を企画していただき、学ぶ機会を得、刺激となった。グループワークでは他者の意見が聞けてよかった。指導の中で感じていた疑問がとけ具体的な行動がわかった。</p>
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度が高い研修となった。継続研修として今後も企画する事とした。</li> </ul>
次年度に向けての検討課題	<p>応募数が 16人と少なかった。3月が開催時期としては適さないのので時期を検討する必要がある。また、対象者を平成27年までの研修修了者で現在臨地実習指導者の役割にある80人とする。</p>
担当者	◎柴田百合子、大塚弘子

## 看護管理研修

【労働者として知っておきたい労働基準法の基礎知識～労働時間編～】研修会 評価

開催日	平成27年7月 28 日 (水曜日)
開催場所	日本看護協会 新潟県看護研修センター
研修目的 または目標	労働者として、看護管理者として知っておくべき労働基準法の基礎知識を身に着ける。
対象参加人数	申込み25人、当日出席23人、修了者23人
研修内容	<p>インターネット配信研修104 [オンデマンド]</p> <p>○講義 労働関係法令と職場のルール 講師 浅見 浩 浅見社会保険労務士事務所 所長</p> <p>○講義 働く契約を結ぶ、とは？ 講師 浅見 浩 浅見社会保険労務士事務所 所長</p> <p>○講義 働く時間はどうか決まる？ 講師 浅見 浩 浅見社会保険労務士事務所 所長</p> <p>○講義 現場の実際 ①年次有給休暇 インタビュー 講師 竹中君夫 社会医療法人明和会医療福祉センター</p> <p>○講義 交代制勤務・当直勤務・オンコールの労働時間の考え方 講師 浅見 浩 浅見社会保険労務士事務所 所長</p> <p>○講義 現場の実際 ②夜勤・交替勤務 インタビュー 講師 竹中君夫 社会医療法人明和会医療福祉センター</p> <p>○講義 時間外労働・休日労働と割増賃金 講師 浅見 浩 浅見社会保険労務士事務所 所長</p> <p>○講義 現場の実際 ③時間外手当と評価 インタビュー 講師 竹中君夫 社会医療法人明和会医療福祉センター</p> <p>○講義 はたらく人を守る 育児・介護と仕事の両立を図るために 講師 浅見 浩 浅見社会保険労務士事務所 所長</p> <p>○講義 現場の実際 ④育児・介護と仕事の両立 インタビュー 講師 竹中君夫 社会医療法人明和会医療福祉センター</p>
結果・評価	学習課題はほぼ達成され問題解決の糸口が得られていた。
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者は学習の必要性を感じている、病院・訪問ST機関からであった。</li> <li>講師・講義内容については最新の知識や基本的な看護、支援の全般的な内容が盛り込まれており妥当な内容だった。</li> <li>研修時間が3時間だったので集中して聴けた。一方、3時間ではもったいない、出来るなら1日コースを望むという声があった。</li> <li>企画側の準備不足があり、オンデマンドが途中からとなっていた。また配信画面が全体的に白っぽく感じたなどの意見があった。</li> </ul>
次年度に向けて の検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>受信環境を整えることが必要課題である。</li> </ul>
担当者	◎新潟県看護協会

【 一般病院における認知症ケアの質向上のための看護管理 】研修会

開催日	平成27年8月3日（水曜日）
開催場所	日本看護協会 新潟県看護研修センター
研修目的 または目標	超高齢化社会で増加し続ける認知症高齢者に対する理解を深め、適切な支援を行うための看護管理者としての役割を学ぶ。
対象参加人数	申込み35人、当日出席35人、修了者35人
研修内容	<p>インターネット配信研修106 [オンデマンド]</p> <p>○講義 認知症高齢者に関わる保健医療福祉政策・施策の動向 講師 堀部賢太郎 独立行政法人国立長寿医療研究センター</p> <p>○講義 認知症高齢者の理解 講師 島林誠 日本看護協会看護研修学校認定看護師教育課程認知症看護学科</p> <p>○講義 一般病院における認知症高齢者ケアと看護管理者の役割 (1) 認知症高齢者へのケア及びケア体制 (2) 認知症高齢者 講師 加藤滋代 学校法人藤田学園藤田保健衛生大学病院</p> <p>○講義 一般病院における認知症高齢者ケアと看護管理者の役割 (3) (4) 講師 得居みのり 社会医療法人財団聖フランシスコ姫路聖マリア病院</p> <p>○講義 一般病院における認知症高齢者ケアと看護管理者の役割 (5) 講師 大塚真理子 千葉大学大学院看護研究科</p> <p>○講義 一般病院における認知症高齢者ケアと看護管理者の役割 (6) 講師 藤原麻由礼 全国土木建築国民健康保険組合厚生中央病院</p>
結果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院に勤務する副看護師長職以上の看護管理者が参加した。</li> <li>・ 学習課題は、達成できた・ほぼ達成できたを合わせて63%とやや低い傾向であったが研修全体を通しては、問題解決の糸口が得られたり充実感が得られるなど成果があった。</li> </ul>
企画の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病院からの参加があり学習の必要性を感じている参加者が多かった。</li> <li>・ 講師・講義内容については最新の知識や基本的な看護、支援の全般的な内容が盛り込まれており妥当な内容だった。問題の糸口が得られた。その一方で、内容は教科書的だった。現場はスざましいことが起きている。具体的な対応についての内容が少ないと感じた参加者もいた。</li> <li>・ 全体に早口で聞き取りにくい感じが前般に多くあった。</li> <li>・ インターネット研修の配信は順調で問題はなかった。</li> <li>・ 今年度から参加費が1円単位の細かい負担になったため予め事務局で両替を行い、受付時での参加費支払いにかかる混乱はなかった。</li> </ul>
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の理解対応ケアについては、診療報酬に大きく関連していく項目となってきた。認知症に関する配信研修が算定要件を満たす内容となることを期待したい。</li> </ul>
担当者	◎新潟県看護協会

## 【 インターネット配信研修(オンデマンド)

夜勤・交代制勤務ガイドライン導入のための実践方法を知る

ー夜勤負担を軽減した勤務づくりを目指してー理論編・運用編】研修会 評価

開催日	平成27年11月4日 (水曜日)
開催場所	新潟県看護研修センター
研修目的 または 目標	①看護職の勤務環境の改善につながる夜勤・交代制勤務ガイドライン導入に向けた基本的な考え方を理解する ②看護職の勤務環境の改善につながる夜勤・交代制勤務ガイドライン導入に役立つ実践的な方法を学ぶ
対象参加人数	23人 (30人募集)
研修内容	<p>インターネット配信研修【オンデマンド】 夜勤・交代制勤務ガイドライン導入のための実践方法を知る【理論編】 ～夜勤負担を軽減した勤務づくりを目指して～ 講義 看護職の夜勤・交代制勤務の実態 安全で質の高い医療・看護提供のための方策 「勤務編成の基準」の11項目 夜勤・交代制勤務の見直しに向けて ～取り組みを進めるポイント～ 夜勤・交代制勤務の労働時間管理のポイント 「勤務時間設計」のヒント 「ガイドライン」普及状況と今後の課題 夜勤・交代制勤務ガイドライン導入のための実践方法を知る【運用編】 ～夜勤負担を軽減した勤務づくりを目指して～ 講義「運用編」への導入 意見交換 先行事例に学ぶ「ガイドライン」導入のポイント ①3交代で勤務間隔を確保する ～スタッフの疑問・反対、管理者の悩み～ 講義 先行事例に学ぶ「ガイドライン」導入のポイント ①3交代で勤務時間を短縮する～問題解決の実際とポイント～ 意見交換 先行事例に学ぶ「ガイドライン」導入のポイント ②2交代の夜勤時間を短縮する ～スタッフの疑問・反対、管理者の悩み～ 講義 先行事例に学ぶ「ガイドライン」導入のポイント ②2交代の夜勤時間を短縮する～問題解決の実際とポイント～ 意見交換 勤務計画表は「スタッフの休みの予定表」？ 「看護提供の計画表」？ ～作成ルールとプライベートの日程確保の共存の「ワザ」～ 講義 成功する導入プロセス よくある疑問とご提案</p>
結果・評価	<p>1. 受講者数:30人募集のところ、23人の参加であった。 ・今年度からの研修となったが、受講者は看護部長・看護師長・主任など管理職であった。 2. 運営について ・研修が、2項目あった。2項目はプログラムのオリエンテーション・日本看護協会からのメッセージをはぶき5分短縮することができた。 ・受講者が23人と少なかったため、運営はスムーズにできた 3. アンケート結果 ・座席の配置がスクリーンに近く、首が痛かった。 ・参考にして、働き続けられる病院を作っていきたい。</p>

企画の評価	プログラム・時期:特に問題なかった。
次年度に向けての検討課題	スクリーンと座席の配置を検討する。
担当者	佐藤志津子      ◎長島弘江

【看護管理研修 ～看護管理者としての危機管理～】研修会 評価

開催日	平成27年2月1日（月曜日）～2日（火曜日）		
開催場所	新潟県看護協会看護研修センター 3階		
研修目的 または目標	目的 看護管理者として災害に必要な知識・技術を学び、管理能力を養う 目標1. 看護管理者として必要な災害看護における知識を深め、看護管理者としての役割を学ぶ。 2. 施設における災害時の緊急対応について学び、危機管理能力を養う。 3. 机上のシミュレーションを通して、看護管理者としての具体的な対応が想定できる。		
対象参加人数	募集人数80人 応募人数16人 参加人数15人(インフルエンザのため1名欠席)		
研修内容	講義 ・平常時における災害への備えと看護職の人材育成 ・災害時に求められる看護管理者の役割 ・災害発生時の看護管理 演習 ・看護管理者としての具体的な対応の実践 ・机上シミュレーション  <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;1日目&gt; 2月1日（月）</p> <p>9:20～9:50 受付</p> <p>9:50～10:00 オリエンテーション</p> <p>10:00～12:00 講義・演習・GW</p> <p>12:00～13:00 昼食</p> <p>13:00～14:30 講義・演習・GW</p> <p>14:30～14:40 休憩</p> <p>14:40～16:00 講義・演習・GW</p> </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <p>&lt;2日目&gt; 2月2日（火）</p> <p>10:00～12:10 講義・演習・GW</p> <p>12:10～13:10 昼食</p> <p>13:10～14:00 講義・演習・GW</p> <p>14:00～15:00 GW</p> <p>15:00～16:00 講義・演習</p> </td> </tr> </table>	<p>&lt;1日目&gt; 2月1日（月）</p> <p>9:20～9:50 受付</p> <p>9:50～10:00 オリエンテーション</p> <p>10:00～12:00 講義・演習・GW</p> <p>12:00～13:00 昼食</p> <p>13:00～14:30 講義・演習・GW</p> <p>14:30～14:40 休憩</p> <p>14:40～16:00 講義・演習・GW</p>	<p>&lt;2日目&gt; 2月2日（火）</p> <p>10:00～12:10 講義・演習・GW</p> <p>12:10～13:10 昼食</p> <p>13:10～14:00 講義・演習・GW</p> <p>14:00～15:00 GW</p> <p>15:00～16:00 講義・演習</p>
<p>&lt;1日目&gt; 2月1日（月）</p> <p>9:20～9:50 受付</p> <p>9:50～10:00 オリエンテーション</p> <p>10:00～12:00 講義・演習・GW</p> <p>12:00～13:00 昼食</p> <p>13:00～14:30 講義・演習・GW</p> <p>14:30～14:40 休憩</p> <p>14:40～16:00 講義・演習・GW</p>	<p>&lt;2日目&gt; 2月2日（火）</p> <p>10:00～12:10 講義・演習・GW</p> <p>12:10～13:10 昼食</p> <p>13:10～14:00 講義・演習・GW</p> <p>14:00～15:00 GW</p> <p>15:00～16:00 講義・演習</p>		
結果・評価	1. 運営について ・空調:23℃設定では寒く、25℃で調整した。講師も風邪気味だったため、室温設定したが、受講生も足元が寒く、掛物で調節していた。 ・にいがた災害看護支援マニュアル（改訂版）、災害看護支援要綱を研修者に配布した。 2. 受講生について ・講義とGW演習の繰り返しで、リーダーを中心にメンバーが補佐しながら進めていた。最初は発言が少なかったが、演習が進むにつれて積極的に参加していた。 3. 研修内容について ・受講生は、1グループ5人名で3グループに分かれ、講義、GW演習を積極的に参加していた。 ・GW演習は、設定されたテーマを時間内で想定した状況下で論理的に検討し、結論を導く作業なので多角的な意見を交わしながら進めるため、1グループ5人が適当であった。 4. アンケート ・アンケート結果より、研修内容は100%がほぼ理解でき、満足度に関しても満足・ほぼ満足が100%満足できたと評価されていることから、目標は達成できた。		
企画の評価	研修評価の達成から、企画評価達成とする。		
次年度に向けての検討課題	・研修開始前、急にグループ分けを講師から言われたため、慌ただしく始まってしまった。去年は講師と面識がある災害看護委員2人の支援があり、講師との連絡調整がスムーズであったことから、災害看護委員会の企画・運営ではどうか提案したい。 ・看護部長・副部長対象の研修応募は、30人名前後が限界と思われ、募集人数の検討が必要である。 ・講師の都合で研修日が2月に変更になったが、当初の予定通り11月に開催をお願いしたい。		
担当者	◎丸山美香 平井正博		



# 認定看護管理者制度教育課程

ファーストレベル

セカンドレベル

【認定看護管理者教育課程ファーストレベル】研修会 評価

開催日	平成27年7月21日（火）～平成27年11月13日（金） 29日間
開催場所	新潟県看護研修センター 3階 大研修室
研修目的 または 目標	1) 看護専門職として必要な管理に関する基本的知識・技術・態度を習得する。 2) 看護を提供するための組織化並びにその運営の一端を担うために必要な知識・技術・態度を習得する。 3) 組織的看護サービス提供上の諸問題を客観的に分析する能力を高める。
対象参加人数	80人
研修内容	新潟県認定看護管理者教育課程ファーストレベルカリキュラムに則った講義および演習 合計 7教科目 (153時間) 1. 看護管理概論 (15時間) 2. 看護専門職論 (30時間) 3. 看護サービス提供論 (30時間) 4. ヘルスケアシステム論(15時間) 5. グループマネジメント(33時間) 6. 人材育成論 (15時間) 7. 看護情報論 (15時間) その他、特別講義 6時間 (文献検索3時間・小論文の書き方3時間)
結果・評価	【評価方法】 教育課程修了者数及び受講者のアンケート ・修了審査の対象者は昨年度教科目未修了者1人を含む81人。審査の結果、修了要件を満たした者80人が教育課程修了と認定を受けた。 ・アンケートの結果、受講しての満足度は「十分満足、ほぼ満足」が96.3%。昨年度（100%）より幾分減じているものの受講後の満足度は高かった。
企画の評価	【目的・目標・内容・プログラムの妥当性】 日本看護協会「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」に準じたものであり、妥当である。 【講師の妥当性】 講師は教科目の専門分野である大学の教授・准教授・認定看護管理者であり、講義内容については「講義内容と演習で実践と照らし合わせることができた。」「看護の素晴らしさを再確認できた。」等と受講者評価も高かった。 【理解度】教科目の全単元・内容で理解度アンケートを実施した。 結果、7教科目の全単元において受講者の8～9割が講義内容を「よく理解できた、理解できた」と回答、「良く理解できた」が「理解できた」を上回っていたのは看護専門職論の「看護実践における倫理」57.5%、看護情報論「看護情報の倫理的側面と対応」51.9%だった。 【時期の妥当性】 セカンドレベルとの兼ね合いがあるので、時期としては7月から11月（現在の状況）が妥当と考える。
次年度に向けての検討課題	・課題レポートの提出に偏りが生じないよう研修の企画・日程調整をする。 ・研修日程が変更された場合は、できるだけ早い段階で受講者に通知する。
担当者	◎坪谷 光子 前田 三重子

【認定看護管理者教育課程セカンドレベル】研修会 評価

開催日	平成27年6月2日（火）～ 平成27年7月16日（木） 計33日間
開催場所	新潟県看護研修センター 2階 中研修室
研修目的 または 目標	1) 第一線監督者または中間管理者に求められる基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を修得する。 2) 施設の理念ならびに看護部門の理念との整合性をはかりながら担当部署の看護目標を設定し、その達成を目指して看護管理過程が展開できる能力を高める。
対象参加人数	26人
研修内容	新潟県認定看護管理者教育課程セカンドレベルカリキュラムに則った講義および演習 1. 看護組織管理論 48時間 2. 人的資源活用論 48時間 3. ヘルスケアサービス管理論 45時間 4. 医療経済論 30時間 5. 統合演習 18時間 合計 5教科目 189時間 その他 特別講義 6時間(文献検索3時間、小論文の書き方3時間)
結果・評価	【評価方法】教育課程修了者数及び受講者アンケート ・平成27年度受講者26人全員が修了要件を満たし、認定看護管理者教育課程セカンドレベル修了と認定された。 ・アンケートからは、十分満足・ほぼ満足が96%(昨年度82%)と増加していた。理由として「管理者として習得すべき知識を学ぶ事が出来た」が挙げられていた。
企画の評価	【目的・目標・内容・プログラムの妥当性】 日本看護協会「認定看護管理者教育課程セカンドレベルカリキュラム」に準じたものであり妥当である。 【講師の妥当性】 講師は教科目における専門分野の大学教授・准教授・認定看護管理者であり、「一流の講師の講義が聴けてよかった」「理論などの知識の習得・理解ができた」と受講者の評価も高かった。 【理解度】 教科目の単元・内容の理解度調査を行った。 A(よく理解できた)B(理解できた)と回答した者は看護組織管理論(97.2%) 人的資源活用論(83.5%)ヘルスケアサービス管理論(88.1%)医療経済論(82.7%)統合演習(47.4%)だった。 【公開講座】受講者数61人 3教科目3講義4日間を公開講座とした。各講座募集20人に対し12～18人の受講があった。受講者全員が研修内容を今後活用できると答えていた。
次年度に向けての検討課題	統合演習のA+B評価が低かった。演習支援の後や改善計画発表会前に再考する時間を設けるなど、日程の工夫をする必要がある。
担当者	前田三重子

# 医療安全管理者研修

【医療安全研修修了者交流会】研修会 評価

開催日	平成27年7月27日（月）13:00～16:30
開催場所	看護研修センター
研修目的 または 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報や知見などを共有して事故防止に役立てる</li> <li>・ 人的交流を図り、医療安全ネットワークづくりを推進する</li> </ul>
対象参加人数	医療安全管理者および医療安全管理の役割を持つ者、ネットワークづくりに賛同する施設。参加人数 17人（うち、3人は医療・看護安全委員、ネットワーク非会員5名人：委員2名人含む）
研修内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全管理ネットワーク新潟 活動紹介（10分） ～ネットワーク（クリニカルジョイント）を活用しての情報交換～ *クリニカルジョイント：地域医療をサポートする“参加型”ウェブサービス</li> <li>2. テルモよりクリニカルジョイントの説明会（20分）</li> <li>3. グループワーク（2G）全体で共有 施設の情報交換（医療安全で困っている事、他施設に聞きたいことなど）</li> </ol>
結果・評価	<p>医療安全管理ネットワーク新潟の会長より、活動内容の紹介があった。会員からは質問や情報交換が役立っているとの反応があり、会員でない非会員からは管理者の許可が得られれば参加してみたいとの声が聞かれた。その後グループワークを行い、活発な意見交換があった。</p> <p>（意見交換概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週1回のカンファレンスの在り方について、医療事故調査制度に向けた準備状況、インスリン使用マニュアルについて、転倒転落防止対策、院内ラウンドの実施方法、患者からの暴力への対応等。</li> <li>*アンケート結果では「満足できた」「ほぼ満足できた」が82%、「整合性があった」82%、「今後も交流の場が必要」91%であった。</li> </ul>
企画の評価	アンケート結果より、研修企画にあった内容で参加者の満足が得られたと評価する。時間配分も適切だった。ネットワーク会員も増え、意見交換が活発になった。医療安全管理の実務者同士の情報意見交換により、自施設の取り組みに反映されたとの報告もあり、目標は達成されたと評価する。
次年度に向けての検討課題	次年度の医療安全管理者養成研修修了者交流会開催について検討したところ、フォローアップ研修との重複があるのではという意見もあった。検討の結果、eラーニング受講による養成研修受講修了者に対するフォローアップは必要であるとの結論に至った。平成27年度の受講者に対しては、初の試みでH28年1月中に研修受講者の交流、受講後の活動報告、情報共有を目的に交流会（グループワーク）を企画する。また、今年度はネットワーク支援として参加者へのネットワークの紹介を企画したが、非会員の参加は3名に留まり、養成研修受講者は医療安全管理者ではない現場スタッフが増加している。この点から次年度はネットワーク新潟からも、新規会員募集活動を検討していただくこととした。
担当者	◎五十嵐実花子、松岡長子、樋口美智子、三膳景子、山崎加代子、桑原和子

【医療安全研修修了者交流会】研修会 評価

開催日	平成28年1月26日（金）13:30～16:00
開催場所	看護研修センター
研修目的 または 目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理者養成研修修了者の交流、研修の現状について情報共有、意見交換を行う。</li> <li>・ 医療安全ネットワーク新潟の活用について情報提供する。</li> </ul>
対象参加人数	9名人（40名人募集）
研修内容	<p>13:30～14:45 2Gに分かれてグループワーク 各自の活動報告と情報交換（医療安全で困っている事、他施設に聞きたい事）</p> <p>14:45～15:00 全体で共有</p> <p>15:00～15:30 医療安全管理ネットワーク新潟 活動紹介 説明者：五十嵐 綾さん（三条済生会病院 医療安全管理室）</p>
結果・評価	<p>養成研修受講者は医療安全管理者は1人のみで、現場スタッフ（師長副師長）が増加している。 （意見交換概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療安全委員会の在り方について（報告だけで終わり、事例分析等の時間が無い、成果が得られない会議）</li> <li>・インシデント報告について（0レベルのインシデント報告が少ない、報告範囲が不明、報告者への対応が遅れがち等）</li> <li>・スタッフ指導における悩み：指導者としてのレベルUP、確認行為が徹底されない、リスク感性を保つには？転倒転落防止対策の実施状況等。</li> </ul> <p>*アンケート結果では「満足できた」「ほぼ満足できた」が82%、「整合性があった」82%、「今後も交流の場が必要」91%であった。</p>
企画の評価	<p>平成27年度の受講者に対しては、初の試みで平成28年1月中に研修受講者の交流、受講後の活動報告、情報共有を目的に交流会（グループワーク）を企画した。参加人数は40人募集のところ9人と少なかったが少人数でグループワークしたことで活発な意見交換があった。アンケート結果より、研修企画にあった内容で参加者の満足が得られたと評価する。開催時期を例年より早めて研修修了後2ヶ月とした点については「妥当であるが冬季は避けて欲しい」という意見があった。目標は達成されたと評価する。</p>
次年度に向けての検討課題	<p>次年度の医療安全管理者養成研修修了者交流会開催時期については対象者が参加しやすくするためには冬季を避け、研修修了後から長く時間を置かないという点で3月初旬としてはどうか。また、アナウンスが不足、遅かったという指摘もあり、次年度は年度予定に掲載しアナウンスする。</p>
担当者	◎五十嵐実花子、松岡長子、樋口美智子、三膳景子、山崎加代子、桑原和子

【医療安全管理者フォローアップ研修】研修会 評価

開催日	平成27年7月16日（木）10:00～16:00
開催場所	看護研修センター
研修目的 または 目標	医療安全管理者および推進者が、医療安全を推進するための知識、情報を共有し、今後の業務に役立てることができる
対象参加人数	募集人数 40人 参加人数 24人
研修内容	Team STEPPSの講義と演習 講師 樋口 敦子 立川総合病院メディカルセンター本部 看護師確保対策室室長兼看護師教育マネジャー
結果・評価	アンケートにて評価する。（回収22 人名/24人中）研修の理解度は「理解できた」「ほぼ理解できた」が95%であった（昨年度90%）。研修の満足度は「満足できた」「ほぼ満足できた」が95%であった（昨年度93%）。また、学習課題の達成度は「達成できた」「ほぼ達成できた」が86%であった（昨年度87%）。80%以上を達成基準と定めており、研修のねらいは、ほぼ達成できたと判断する。殆どの項目で昨年度より評価が高かった。
企画の評価	アンケートにて評価する。ねらいとの整合性は95%であった。80%以上を達成基準と定めており、医療安全管理者のフォローアップとしてこの企画は有効であったと判断する。
次年度に向けての検討課題	今年度は「Team STEPPS」研修を主催する立場の医療安全推進者に向けたプログラムとなっており、新しい研修プログラムの紹介や効果的な構成、ファシリテーターとしての役割など実践的な内容であった。参加者が自分の施設に持ち帰り、役立てることができる実践的な研修であった。 3年間で92名人が受講者したが、毎年、新たな講義媒体(DVD)や演習が加わるなど刷新されていること、チーム医療の推進は社会的ニーズであることから、医療安全推進者に普及したい内容である。研修評価・企画評価ともに高かったことから、次年度も同様の研修を企画し、「Team STEPPS」研修の機会を提供していく。また、参加者が主任・副看護師長などが増えてきていることから、受講対象を過去に本研修を受講したものに拡大し、医療安全に関わる業務を行う主任・副看護師長などへの参加を呼び掛けることとする。
担当者	◎五十嵐実花子、松岡長子

【医療安全管理者養成研修 e-learning】研修会 評価

開催日	e-learning:平成27年8月1日～11月30日 集合研修 :平成27年10月1日(木)9:00～17:30 平成27年11月12日(木)9:00～17:30
開催場所	看護研修センター
研修目的 または 目標	1.医療安全対策の動向や関連法規・制度等を理解し、医療機関における医療安全管理者としての役割と位置づけを理解する。 2.医療安全の専門的知識と技術を学び、医療安全管理者として実践に活かせる。
対象参加人数	募集50人 参加73人
研修内容	e-learning(15項目 33時間)と集合研修(16時間 2日間)
結果・評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・eラーニングテストで合格点80点以上は73人/73人だった。研修としての質の担保がされたと考える。</li> <li>・職位は看護師長が46%と昨年とほぼ同様、専任は4.35%、施設内の医療安全委員は24.64%、部署内の医療安全委員は11.59%、部署の責任者は42.03%で、師長または部署の責任者が多いのは昨年とほぼ同様であった。</li> <li>・アンケート結果より勤務時間内に学習時間が確保されていたかの質問に対し、確保されている8.7%、確保されていない91.3%だった。</li> </ul> <p>e-learningのメリットである「自身の生活に合わせ視聴できる。」「聴き逃した内容を再確認できる。」を挙げた受講者の傾向として、業務時間内の時間確保がされている事が読み取れた。反面、視聴時間が確保できない状況で「負担感が大きい。」と感じている受講者も多くいることが読み取れた。「集合研修の回数を増やして。」等の意見は、時間確保の現状が各施設によって異なることから、協会から希望施設ならびに受講希望者へe-learningを選択するための情報提供(商品パッケージや受講者の感想などの事前説明)は継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月前半の集合研修までに担当講師に関連する講義の視聴のお願いを、e-learningの中に掲載し結果、全員が受講し有効であったため継続とする。</li> <li>・参加者に医師2人がいたことから今後は他職種の参加も期待される。</li> </ul>
企画の評価	e-learningテスト80点以上でクリアの条件のところ、期日までに全員修了、集合研修2日間は欠席者なし。 今年度は集合研修までにeラーニング講習は受講出来ていた。研修のねらいは達成できた。集合研修は有意義のため、3日間できると良い。(9月に追加)
次年度に向けての検討課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修時間の確保が問題のため、次回2月の修了者交流会で確保されている施設から聞く。次回案内時にアナウンスする。</li> <li>・集合研修を9月に1回増やして頂けるとモチベーションがアップするため学研に要望する。</li> </ul>
担当者	◎五十嵐実花子、松岡長子、樋口美智子、三膳景子、山崎加代子、桑原和子

【 医療安全管理者 ネットワーク推進会 】研修会 評価

開催日	平成27年12月14日 (月曜日)
開催場所	看護研修センター
研修目的 または 目標	医療安全管理者が得られた情報や知見などを共有して自施設の事故防止に役立てることができるよう支援する。
対象参加人数	13人:ネットワーク会員・委員 (オブザーバー臨港病院より 1人)
研修内容	T-PAS勉強会 (テルモ株式会社担当者より) ・輸液セット・輸液ポンプについて使用上の注意点およびインシデント事例の原因について体験学習する
結果・評価	プログラムにそって下記について体験し講義を受けた。 ・輸液セット:PVCフリーは伸縮性あるDEHPフリーはないのでちぎれる ・留置針の二度刺しによるカテーテルの破損→二度刺し禁止 ・閉鎖式混注管への金属針穿刺による破損 ・輸液ポンプのインシデント事例 ①片方のみポンプで反対は自然滴下の場合、患者側が閉塞すると片方に逆流する→2剤を流す場合は両方共ポンプを使用する。 ②片方が空になるとポンプ側がエアを巻き込んでルートにエアを送り込む 他 参加者からは実際に体験することで危険性がよく理解できた。スタッフ指導に活用できる、自施設でも同様の勉強会を開催したい等の感想があった。
企画の評価	医療・看護安全委員が橋渡しとなり、医療安全ネットワークの参加と相互の交流、連携を推進するために企画した。 研修の事前準備はネットワークメンバーと連携し会場の調整をおこなった。 講師依頼と当日の運営はネットワークメンバーが主体となった。 参加者からは、本研修での情報知識を活用できるとの感想があり、研修企画および内容は妥当であったと評価する。
次年度に向けての検討課題	特になし
担当者	◎五十嵐実花子、松岡長子、樋口美智子、三膳景子、山崎加代子、桑原和子

【医療安全ポスター展示】 評価

開催日	平成27年11月27日 (金曜日)
開催場所	朱鷺メッセ 新潟県看護協会看護学会「地域を支える看護の力」会場
研修目的 または 目標	看護協会員に向けて、医療安全管理ネットワーク新潟の各医療施設における医療安全推進の取り組みを紹介し、活動を広く知ってもらおう。 各施設の医療安全推進の取り組みを対外的に発信しアピールすることができる。医療安全管理ネットワーク新潟を県内の看護職に広報し、ネットワークの拡大につなげられる。
対象参加人数	質問者3名人
研修内容	1. 自施設の医療安全に関する取り組みの紹介をポスター8枚程度にする。 2. ネットワーク会員の2～3施設程度から発信する。 3. 医療安全管理ネットワーク新潟 活動紹介 ポスター展示施設 三之町病院、信楽園病院、医療安全管理ネットワーク新潟 各担当者による質疑応答1時間(12:00－13:00頃)
結果・評価	計画通りポスター展示ができたため目的は達成とする。しかし、3施設からポスター展示と質疑応答のため待機していただいたが、質問者は3人名程度だった。
企画の評価	県内の看護協会員に広く、各施設の医療安全活動を知ってもらうよい機会であったが急遽、ポスター展示を企画したため当日、会場にて質疑応答の時間のアナウンスや掲示がなかった。事前の準備が不十分であった。
次年度に向けての検討課題	ネットワーク新潟メンバーに活動を広報する機会として次年度も継続することを紹介する。 ホームページでの事前案内や当日、会場でのアナウンスや呼びかけを学会委員会に依頼する。 他の委員会の活動紹介コーナーがあってもよいのでないかを提案する。
担当者	○五十嵐、松岡、樋口、三膳、山崎、桑原

# 災害支援ナース養成研修

【災害医療と看護（基礎編）インターネット配信研修】評価

開催日	平成27年7月9・10日（木・金曜日）
開催場所	新潟県看護研修センター 3階 大研修室
研修目的と目標	<p>【目的】 災害医療および看護の基礎的事項を理解するとともに、災害看護に必要な知識・技術を習得し、実践できる能力を養う。</p> <p>【目標】 1. 災害に関する基礎的事項について理解する。 2. 災害看護の特殊性について理解する。 3. 災害発生時の対応について理解する。 4. 災害サイクル各期に必要な災害看護の知識・技術を習得する。</p>
対象参加人数	災害支援ナースを志す者 48人
研修内容	<p>1日目 「災害医療の変遷と発展」「災害医療の基礎知識」 中山伸一先生 「災害支援活動に必要なこころのケア」 飛鳥井望先生 「災害支援活動における日本看護協会の取り組み」 中板育美先生</p> <p>2日目 「災害看護の基礎知識」「災害サイクルに応じた看護」 石井美恵子先生 「災害時における保健師の活動」 松下清美先生 「平時における災害の備え」 石井美恵子先生</p>
結果・評価	<p>1. 受講後のアンケート結果と受講態度から評価した（回答数47 回答率97.9%） 1)研修の導入部分である「災害医療の変遷と発展」、昼休憩後の「災害支援活動に必要なこころのケア」について、あまり理解できないと回答した割合が4.3%、8.5%であった。居眠りしている受講者が1/4程度いた時間があった。研修の導入部分や昼休憩後は、興味や関心を引くプログラム構成がよいのではないかと。</p> <p>2)保健師の活動について、あまり理解できないと回答した割合は24.4%であった。参加者は全員看護師であり、活動のイメージが湧かなかつたと考える。保健師との協働は必須であり、今後の研修の課題としていきたい。</p> <p>3) その他の講義については、理解できた、まあまあ理解できたと回答していた。災害時の対応についてイメージすることができたという意見や時の自身の思考や行動について、課題を見つけれられたとの意見があった。災害支援ナースに求められる看護専門職としての活動については、理解が得られたと考える。</p> <p>2.受講者の満足度 ・ 石井先生の講義について満足度の高い意見が複数あった。</p>
企画の評価	<p>1.目的・目標の妥当性 1)災害支援ナースを志す対象にとって、妥当な目的・目標であると考ええる。 2)石井美恵子先生への感謝・感動の言葉が複数あった。受講者の満足度アップにつながっていると考える。 3.プログラム・時期の妥当性など 1) 研修開始時や休憩後のプログラム構成は難しいと感じた。 2) 昨年は台風の影響で日程が延期されたが、今年度は被害なく研修が開催できた。妥当であったと考える。（沖縄は延期となったので、全国的にはどうか） 4.研修の事前準備・当日の運営など ・トラブルなくインターネット配信することができた。</p>
次年度に向けての検討課題	インターネット配信であり、一方向の研修になるのが否めない。独自にアンケートをとり、研修の満足度などを評価し、実践編で不足を補うようにする。
担当者	小林志保美、高原則子、田崎充子、星野美代子、保科寛子（文責）

【災害医療と看護（基礎編）インターネット配信研修】評価

開催日	平成27年 8月5・6 日 (水・木曜日)
開催場所	新潟県看護研修センター 3階 大研修室
研修目的と目標	<p>【目的】</p> <p>1. 災害支援ナースの役割機能を再確認し、被災地や被災者にとって有効に機能できる能力を維持する。</p> <p>2. 災害支援ナースとして、他者との協働、自律的な活動の重要性を再認識する。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 最新の知見について確認することができる。</p> <p>2. 机上シミュレーションを通して、活動展開を再確認することができる。</p>
対象参加人数	災害支援ナースを志す者 46人
研修内容	<p>1日目</p> <p>講義「災害支援活動の実際 ―役割と課題」</p> <p>2日目</p> <p>演習「災害支援ナースの活動の実際」</p> <p>計26の設問をグループワークで回答を出し、講師が解説を加えながら進行した。</p> <p>講師 東京医療保健大学東が丘・立川看護学部准教授 石井美恵子先生</p>
結果・評価	<p>1. 受講後のアンケート結果から評価した (回答数46 回答率 %)</p> <p>1) 災害支援ナースの役割・機能について 災害支援ナースについて他者に説明することや、役割・機能について再確認することについて、全員ができた・まあまあできたと回答していた。</p> <p>2)</p>
企画の評価	<p>1. 目的・目標の妥当性</p> <p>2. プログラム・時期の妥当性など</p> <p>3. 研修の事前準備・当日の運営など</p>
次年度に向けての検討課題	
担当者	小林志保美、岩佐有華、星野美代子、保科寛子(文責)

【災害支援ナース養成研修＜実践編＞】評価

開催日	平成27年11月6日（金）10:00～16:00 11月7日（土） 9:30～16:00
開催場所	新潟県看護研修センター 3階 大研修室
研修目的 または 目標	◎目的 1. 看護専門職の災害時支援者として、被災地や被災者にとって有効に機能できる能力を習得する 2. 災害支援ナースとして、他者との協働、自立的な活動の重要性を認識する ◎目標 1. 国自治体の災害医療体制の概要を理解し、日本看護協会・新潟県看護協会の災害時支援ネットワークシステム・災害支援ナースの意義について理解することができる 2. 専門職ボランティアとしての災害支援ナースの役割・機能がわかる 3. 災害支援ナースとしての活動展開、展開にあたっての留意事項がわかる 4. 机上シミュレーションを通して、災害支援ナースの活動の実際を想定することができる
対象参加人数	◎災害支援ナースに登録を目指す新潟県看護協会会員であり、かつ臨床経験年数5年相当を有するもので「基礎編」修了者—30人（うち災害看護委員 2人）
研修内容	◎11/6（1日目） ・講義1 「国自治体の災害医療体制の概要」 三条地域振興局健康福祉環境部 田崎充子 ・講義2 「日本看護協会・新潟県看護協会の災害時支援ネットワークシステム」 「災害支援ナースとは.災害支援ナースの役割・機能」 新潟県看護協会災害看護担当理事 皆川陽子 ・講義3 「災害支援ナースの活動展開」 東北福祉大学健康科学部保健看護学科教授 三澤寿美 ◎11/7(2日目) ・演習・机上シミュレーション 「災害支援ナースの活動の実際:演習による疑似体験」
結果・評価	◎評価方法: アンケート結果（回答数27名人（災害委員を除く） 回収率97%）と受講者の反応から評価 目標1について ・「国自治体の災害医療体制の概要」については、よく理解できた・まあまあ理解できたと回答していたものが93%であった。あまり理解できなかった者が7.4%いた。7.4%の人があまり理解できなかったと回答していたことから、研修の構成を見直す必要があると考えられる（企画の評価参照） ・「日本看護協会・新潟県看護協会の災害時支援ネットワークシステム」 「災害支援ナースとは.災害支援ナースの役割・機能」に関しては、理解できた・まあまあ理解できた者があわせて100%であったので、おおむね、目標は達成できたと考える 目標2.3について

	<p>理解できた者が約60%、まあまあ理解できた者が約40%が回答しており、合わせて100%となり、目標は達成できたと考える。</p> <p>目標4.について  「よくできた」が22%、「まあまあできた」が78%、あわせて100%となり、おおむね目標は達成できたと考える。ただ、災害支援ナースとして活動していく自信をあまり持てなかったと回答している者は5人(18%)いたが、具体的なイメージができたからこそ、活動していくという自信がもてなかったり、不安を持ったのではないかと思う。平時でできないことは、災害時でもできないということ認識して、日々の業務も意識して行ってもらいたいと考える</p> <p>参加者の背景として  ・男性が増えてきている。(18%)      ・40・50代があわせて10人いた(37%)</p>
<p>企画の評価</p>	<p>&lt;目的・目標・内容・プログラムの妥当性&gt;  ・アンケートの結果から妥当であったと思われる  ・「国・自治体の災害医療体制の概要」については、あまり関心のない分野だからこそ、必要な内容であるため、導入を見直す必要があると考える。導入部分で、災害支援ナースにどうして必要なかを理解してもらうことが必要であると考え(プログラムの構成を検討していく必要があると思われる)</p> <p>&lt;時期&gt;  衛星通信研修「災害医療と看護(基礎編)」終了後に開催したが、少し時間が経っているため、来年度は9月開催に変更とした</p> <p>&lt;運営&gt;  ・今回から、今年度指導者養成研修を修了した4人を講師・ファシリテーターとして採用したが、集合時間・メールが届かないなどの事前連絡が不足していた</p>
<p>次年度に向けての検討課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラム構成と導入を検討する。</li> <li>・机の配置(映像に対し後ろ向きにならないように)担当の方に伝達する</li> <li>・ファシリテーターへの事務連絡などを改善していく必要がある</li> </ul>
<p>担当者</p>	<p>保科寛子 高原則子 田崎充子 星野美代子 岩佐有華 小林志保美(文責)</p>

【災害支援ナース指導者研修】評価

開催日	平成 27 年 9 月 15・16 日（火・水曜日）
開催場所	新潟県看護研修センター 2階 研修室
研修目的	1 看護専門職の災害支援者として、被災地や被災者にとって有効に機能できる実践的能力を備える災害支援ナース育成者としての知識を習得する。
研修目標	1 新潟県看護協会の研修における災害支援ナースの役割・機能および育成について理解できる。 2 災害支援ナースの活動を想定し、育成に関わる指導者の役割についてグループワークを通して理解できる。 3 グループワークで得た学びの振り返りと共有によって、災害支援ナース育成に関わる指導者の役割をイメージすることができる。
対象参加人者	今後、指導者として関わる意思のある人 15人
研修内容	1日目 ・ 講義 （教授法について） ・ ペアワーク（災害支援ナース研修の演習の指導案について） 2.日目 ・ ペアワークと発表 講師：石井美恵子先生 東京医療保健大学東が丘立川看護学部災害看護コース准教授 ペアワーク支援：災害支援ナース指導者養成研修修了者等 5
結果・評価	1 ペアワークの発表から、「できる」ために「わかる」の積み重ねを繰り返すことで短時間の講義が「できる」ようになった。研修目標を達成できたと考える。 2 ペアワークは受講者の主体的な学びの姿勢が感じられ良かった。今後は、ある程度の企画側の事例提示等の工夫が付加されるとより効果的な学びの場になる。 3 研修後、受講者が災害研修運営への協力やリーダーシップを意識して行動すると答えており、人材育成につながったと考える。
企画の評価	1 目的・目標の妥当性 内容は難しかったが、受講者は達成感を得て今後の研修への参加意欲につながった。目的・目標は妥当であった。 2 プログラム・時期の妥当性など 講義後、ペアワークで模擬授業を発表したことは成果発表となり、内容は妥当であった。時期も適していた。 3 事前準備・当日運営など ペアの組み方の検討が必要。今回、災害時はその場で知り合った仲間と活動していく事等から意図的な組み方を行わなかった。しかし、研修をより効果的に進めるには意図的な組み方も必要と考える。
今後の課題	研修終了者の活用方法やフォローアップを考える必要がある。
担当者	小林志保美、岩佐有華、星野美代子、田崎充子、保科寛子（文責）



## 看護学校教員研修

## 【 みんなで行う学校管理・運営 】 研修会 評価

開催日	平成 27年 10月 3 日 (土曜日)
開催場所	新潟県看護協会研修センター
研修目的 または目標	1. 教員の一員として協働していく重要性を理解し、役割を遂行できる。
対象・受講数	看護学校に勤務する教員 募集数60人 応募34人 受講34人
研修内容	<p>講師 齋藤 茂子 東京工科大学医療保健学部看護学科 教授</p> <p>10:00~12:30講義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護学校組織の特徴</li> <li>・看護学校における組織管理</li> <li>・看護組織の一員としての看護教育</li> <li>・学校管理・運営と教育</li> </ul> <p>14:20~14:50 グループワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教頭等の管理者、主任、一般のグループに分かれてGW</li> </ul> <p>14:10~15:00休憩</p> <p>15:00~15:30発表 質疑応答</p> <p>15:30 まとめ</p>
結果・評価	<p>1.受講者の属性 受講者は34人であり、受講者の属する機関は、3年課程が26人(84%)進学課程は5人(16%)であった。職種は保健師2人、助産師3人、看護師26人だった。教員経験は5年未満が30%、15年以上が70%であった。</p> <p>2.理解度・満足度等 理解度:「理解できた」「ほぼ理解できた」は92%。満足度:「満足できた」「ほぼ満足できた」93%。学習課題の達成度:「ほぼ達成」90%であり研修の目的は達成できたと考える。</p> <p>3.GW 経営上の課題、1)学生の退学率の上昇や国家試験合格率の低下、2)教員の定着率の低下、3) 実習病院に就職しないで実習を断られた等について個人ワーク後の GWでは活発な意見交換が行われた。GW は所属機関が同一であったほうがより効果的だという一方で、所属機関が異なっても、日頃より交流があり、初対面の関係ではないため発言しにくい等の記述もあった。また新人教員がどう経営に参画するのかの先輩から聞いたかったという意見があった。</p> <p>4.その他意見 新たな視点から学校経営管理について学び、組織を見直す機会ができ改善に役立たせたい。</p>

みんなで行う学校管理・運営 【 研修会

	分かり易く充実した内容で、今後の講義テクニックなど学ぶ点が多かった。
企画の評価	・今年度より、看護協会の教育計画冊子に企画を掲載し、受講者を募る形式とした。教員の会の代表者との打ち合わせにより練り上げられた企画内容となり満足が得られた。
次年度に向けての検討課題	・今回、受講できなかった教員も経営参画について学び、理解を促進し、みんなで行う学校管理・運営をとの展望がある。次年度も同研修を実施する意向である。 ・演習課題シートは事前に受講者に配布し問題の整理をして参加したほうがより円滑なGWになると思われる(要件等)。
担当者	◎新潟県看護協会 理事